

平成28年3月吉日

会員各位

## 千葉工業大学技術士会 第10、11合併号会報配布のご連絡

千葉工業大学技術士会  
会長 山下 幹夫

拝啓

初夏の候、益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。

当会も平成27年に設立10年目を迎えることができました。これも一重に皆様のご協力とご支援によるものと深く感謝申し上げます。

さて、時間を要しましたが『千葉工業大学技術士会 第10、11合併号会報』を発行することができました。

千葉工業大学同窓会の意向を受けて『技術士への挑戦！ガイドブック』は2015年版を最後に千葉工業大学同窓会HP上に公開することとなりました。今後、本編の活用等につきましても、新合格者からの記事の他、毎年実施される試験の期日の紹介等、齟齬の無いように努めてまいりますので、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

ご多忙の折、お身体をご自愛下さいましてお過ごし頂きますようお願いいたします。

なお、第10号発行にあたっては、当初昨年6月を予定していましたが、この期になりましたことを深くお詫び申し上げます。

敬具

# 千葉工業大学技術士会

## 会 報

No. 10, 11 2016



# 目 次

## 会 長 挨 拶

(平成 26 年度、平成 27 年度の千葉工業大学技術士会の活動を顧みて)

	頁
1. 第 9 回総会報告	1
1.1 総会概要	1
1.2 議事内容	1
1.3 総会議事録	8
2. 第 10 回総会報告	9
2.1 総会概要	9
2.2 議事内容	9
2.3 総会議事録	18
3. 特別講演会	19
3.1 第 9 回特別講演会	19
3.2 第 10 回特別講演会	20
4. 特別講義活動	22
4.1 平成 27 年度実施状況	22
4.2 平成 28 年度予定	28
5. 特別寄稿文の紹介	30
5.1 世界最高レベル級のアスファルト表面遮水壁型フィルダム完成	30
6. 千葉工業大学技術士会の現況	32
6.1 千葉工業大学技術士会の変遷	32
6.2 登録地別分布	32
7. 日本技術士会との協定	33
8. 外部団体との提携・協力	34
8.1 平成 27 年 10 月 蔵前工業会セミナー参加報告	34
8.2 平成 27 年千葉県内技術士会合同勉強会参加報告	36
8.3 日本技術士会 1 月建設部会講演会報告	37
8.4 日本技術士会 2 月建設部会講演会報告	39
8.5 日本技術士会 2 月建設部会講演会報告	41
8.6 日本技術士会第 64 回技術者倫理研究会参加報告	41
8.7 日本技術士会における C P D 活動の紹介	44
9. 広報委員会から	45

## 平成 26 年度、27 年度の千葉工業大学技術士会の活動を顧みて

千葉工業大学技術士会

会長 山下 幹 夫



我が国の経済政策はデフレ脱却、そしてインフレーターゲットを決めた金融緩和政策での経済の好循環を図り財政健全化に向けて邁進する一方、遠く IS の活動や、近隣諸国での世情改変の動きから、我が国の安全保障環境の見直しを含めた法改正等、地球規模での情勢変化に敏感な環境になりつつあります。

私は平成 26 年 4 月より溝邊哲男氏（名誉会長）の後任として当技術士会の会長を務めさせていただいておりますが、当技術士会も 10 年というスパンでの変革を迫られているやに見受けられます。

一方、千葉工業大学もロボテクや流星カメラなどのマスコミに多く取り上げられ、受験生の増加と学生のレベルアップに拍車がかかり、瀬戸熊理事長をはじめとする経営層と小宮学長を筆頭にした教育学務層と坂本同窓会会長を筆頭とした同窓生組織らによるコラボレーション成果が着々と生まれているのではないのでしょうか。この事は平成 26 年度の技術士会が主催した特別講演会で「グローバル化時代の工学教育」と題して、小宮千葉工業大学学長に講演をして頂きました時にもこの風を感じました。従って、少子化の近未来でも創立 100 年の節目に向けて社会に貢献できる学窓となるべく多面的な施策を実践し、歴史を刻んでいるように見られます。

そこで、千葉工業大学技術士会も昨年、創立 10 周年を迎えましたが、この 10 周年に向けて、平成 26 年度より「10 周年記念事業実行委員会」を設け、平成 27 年に行う記念事業についての各種の検討を行ってまいりました。特に 10 周年記念事業と銘打った特別講演会は本技術士会の年度総会後の同日、大学で 300 名以上収容できる大教室をお借りして実施致しました。この特別講演会の講師には元日本銀行理事、ちばぎん総合研究所取締役社長 水野 創氏による「今後の首都圏経済の展望と科学技術に期待されるもの」とした主題で、副題“2005 年から 2015 年、そして 2025 年にむけて”との内容で、貴重なデータ分析を踏まえた、経済的な観点から多くのサジェスチョンを頂いた特別講演会であったと考えています。この講演会の参加者には会員はもとより地域の方々、企業の方々、大学関係者等多くの聴講者に参加していただきました。ここに改めまして御礼申し上げます。

千葉工業大学技術士会として外部機関である日本技術士会と、昨年、「技術士及び技術士制度の広報に関する相互協力協定」を締結致しました。その他、大学技術士会連絡協議会を通じた他大学技術士会との交流、日本技術士会千葉県支部、千葉県庁技術士会と船橋市役所技術士会との合同勉強会の開催など幅広く関係する技術者との交流にも積極的に参加致しました。

大学技術士会としての内部活動では例年通り、受験支援委員会での受験日程の提供、技術士制度の変更に関する各種情報の提供、特別講義実行委員会では大学の JABEE コースに関連した種々の特別講義の実施、また、広報委員会では「技術士挑戦ガイドブック」の再編集と継続的発刊、技術士会ホームページの充実化に取り組みました。加えて、事務局を筆頭とした大学・同窓会との連携を図った活動など理事を核とした各委員の多面的な活動も有りました。

今後、千葉工業大学技術士会が存在価値をより高め、15周年 20周年と歩むには活動内容や組織の在り方、会員動向など多くの課題があります。このために各理事と力を合わせ、新しい事にチャレンジしていきますので、会員を始め、関係各位の暖かいご支援を頂きますよう切にお願い申し上げます。



芝園校舎

# 1. 第9回総会報告

(活動期間；平成25年4月1日～平成26年3月31日)

## 1. 第9回総会報告

### 1.1 総会概要

開催日時 平成26年7月5日(土) 13:00～13:50

開催場所 千葉工業大学2号館2階 会議室3.4

出席者 (顧問・役員・委員)

顧問；高橋 芳弘

会長；山下 幹夫

副会長；久多羅木 吉治

理事；佐々木 武彦 秋山 勇治 相馬 裕 黒澤 伸好

町田 文男 河瀬 日吉 堀田 光 小笠原 睦 今井誠

監事；松野 勝

会員；会員数 125 名 委任状 40 名 出席者 29 名 合計 69 名

### 1.2 議事内容

#### 1.2.1 議長・議事署名人の選出および総会設立の確認

##### (1) 議長選出

会則第13条(職務)に則り、山下会長を総会の議長とした。

##### (2) 議事録署名人の選出

立候補者不在のため、議事録署名人は事務局によって選出した下記の2名に依頼した。

金井誠一郎様 吉田彰男様

##### (3) 総会設立の確認

本会員総数125名に対し、出席者29名、議決権の議長委任者40名(合計69名)により過半数以上の出席により、本総会は有効に成立することを確認した。

##### (4) 祝電紹介

吉田日本技術士会会長、笠原電気・電子部会長、東京都市大学技術士会(柏門会)等の祝電紹介。

#### 1.2.2 議事

##### (1) 第1号議案；平成25年度事業(活動)報告の件

・町田事務局長より第1号議案資料に基づき、平成25年度における本学技術士会の活動報告がなされ、議案承認された。また、松野監事より、監査結果が適性かつ正確である旨の報告がなされ、議案承認された。

##### 【要旨】

平成25年度においても、例年通り本会設立の趣旨に沿って、会員相互の交流・研鑽、本学の教育と研究への協力・支援並びに卒業生・院生・学生への技術士、技術士補資格取得のための支援を継続しました。また、平成27年7月実施予定の本学技術士会10周年記念事業に向けた取り組みを開始しました。

① 会員通信(No.9 2014発行)

② JABEE コース学生への特別講義と JABEE 認定プログラムの支援

③ 技術士制度の啓蒙

・校友タイムスへの受験情報の記事掲載

- ・「技術士への挑戦ガイドブック」の発行
- ④ 大学・同窓会事務局および産学官融合センターとの連携強化
  - ・千葉工大研究活動報告会、産官学連携フォーラムへの出席
- ⑤ 日本技術士会、大学技術士会連絡協議会との連携
  - ・柏門会（東京都市大学）、蔵前工業会（東京工業大学）、千葉県技術士会、NEC 技術士会、弾性波診断技術協会等の開催する技術講演会、シンポジウムへの参加および日本技術士会賀詞交歓会への参加。
- ⑥ 会員パーソナルデータの整備と活用
  - ・原稿依頼、特別講演講師の依頼に活用
- ⑦ 正会員・賛助会員の増員
  - ・個人情報保護の観点から情報収集に限りがあり大幅な会員増に至っていない。

(2) 第2号議案；平成25年度収支決算、監査報告の件

- ・小笠原副事務局長より第2号議案資料（P5～P7参照）に基づき、平成25年度の決算報告がなされた。

(3) 第3、4号議案；平成26年度における事業（活動）計画および予算案の件

- ・町田事務局長より第3号議案資料に基づき、平成26年度における本学技術士会の活動計画が説明された。引続き小笠原副事務局長より第4号議案資料に基づき、同年の活動予算について説明がなされ議案は承認された。

【要旨】

平成26年度においても、例年通り本会設立の趣旨に沿って、会員相互の交流・研鑽、本学の教育と研究への協力・支援並びに卒業生・院生・学生への技術士、技術士補資格取得のための支援を継続する。平成27年7月実施予定の本学技術士会10周年記念事業に向けた取り組みを本格的に実行する。

- ① 会員通信(No. 10 2015)の発行；未発行のため、No. 10, 11号合併号とした
- ② 技術士ホームページの充実
- ③ JABEEコース学生への特別講義とJABEE認定プログラムの支援
- ④ 技術士制度の啓蒙；NEWSCIT、校友タイムスへの受験情報の記事掲載、「技術士への挑戦ガイドブック」の発行
- ⑤ 大学・同窓会事務局および産学官融合センターとの連携強化
- ⑥ 特別講演会の実施
- ⑦ 日本技術士会、大学技術士会連絡協議会との連携
- ⑧ 10周年記念事業内容の検討
- ⑨ 会員パーソナルデータの整備と活用
- ⑩ 正会員・賛助会員の増員

(4) 第5号議案；平成26年度役員の内

- ・町田事務局長より第5号議案資料に基づき、平成26年度における本学技術士会の役員選出について説明され、下記のとおり議案承認された。

**【平成26年度顧問・役員】**

最高顧問：小宮 一仁(学長)  
 名誉顧問：本岡 誠一(前学長)  
 顧問：竹田 康弘(理事) 近藤 誠(研究支援部長)  
           高橋 芳弘(機械サイエンス学科) 内海 秀幸(建築都市環境学科)  
 名誉会長：溝邊 哲男(電気36年)  
 理事(会長)：山下 幹夫(土木44年)  
 理事(副会長)：久多羅木 吉治(土木46年) 町田 文男(土木50年)  
 理事：佐々木 武彦(機械36年) 秋山 勇治(電気37年)  
           相馬 裕(土木42年) 黒澤 伸好(金属修士47年)  
           河瀬 日吉(土木51年) 堀田 光(土木53年)  
           小笠原 睦(電気56年) 五嶋 智久(機械H8年)  
           今井 誠(精密機械修士H11年)  
 監事：松野 勝(土木63年)

**1.2.3 報告**

(1) 第1号報告；平成26年度 委員会および委員の内

- ・町田事務局長より第1号報告書に基づき、平成26年度における本学技術士会の各委員会および所属委員について下記のとおり報告があった。

《平成26・27年度各種委員会、事務局委員》

組織・担当	役職	氏名
受験支援委員会	委員長	久多羅木 吉治
	副委員長	黒澤 伸好
	委員	桶川 幸二(機械51年)
広報委員会	委員長	河瀬 日吉
	副委員長	五嶋 智久(機械H8年)
	委員	横尾 徹(土木57年) 望月 直(機械H9年)
特別講義実行委員会	委員長	堀田 光
	副委員長	佐々木 武彦
	委員	秋山 勇治、相馬 裕、今井 誠
	JABEE 担当	小久保 優(土木52年)
大学技術士会連絡協議会		町田 文男
事務局	事務局長	町田 文男
	副事務局長	小笠原睦
10周年記念事業実行委員会	委員長	相馬 裕
	副委員長	河瀬 日吉 今井 誠
	委員	理事全員

注]太字；新任



(2) 第2号報告；受験支援委員会活動報告

- ・受験支援委員会の久多羅木委員長より、第2号報告資料に基づき、平成25年度の活動実績と平成26年度における活動予定について報告があった。
- ・平成25年度に技術士制度が大きく変わったことに対する説明があった。  
技術士への第一歩となる第一次試験において、数学、物理学、化学、生物学、地学かの5学科から2学科選択する共通科目が廃止され、科学技術全般に渡る基礎知識を問う基礎科目の出題分野が一部再編された等である。

(3) 第3号報告；広報委員会 活動報告

- ・広報委員会の山下前委員長より、第3号報告資料に基づき、同委員会における平成25年度の活動実績と平成26年度における活動予定について報告があった。

(4) 第4号報告；特別講義実行委員会活動報告

- ・特別講義実行委員会の堀田委員長より、第4号報告資料に基づき、平成25年度の活動実績と平成26年度の活動状況の中間報告、および、今後の予定について報告があった。

(5) 第5号報告；10周年記念事業実行委員会活動報告

10周年記念事業実行委員会の相馬委員長より、第5号報告資料に基づき、平成26年度の活動実績と平成26年度の活動状況の中間報告、および、今後の予定について報告があった。

(6) 第6号報告；大学技術士会連絡協議会の件

- ・大学技術士会連絡協議会担当の町田事務局長より第6号報告資料に基づき、同協議会への参加大学および大学別の技術士1次試験・2次試験の合格者について報告があった。
- ・大学技術士会連絡協議会参加大学21校

(7) 第7号報告；本学技術士会会員動向の件

- ・町田事務局長より第7号報告資料に基づき、本学技術士会の会員動向（会員数、都道府県・出身学科別・技術士部門別）について報告があった。
  - ・正会員数121名（技術士105名、技術士補16名）
  - 賛助会員1名、特別会員3名

## 平成 25 年度 決算報告

(活動期間 : 平成 25 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 3 月 31 日)

### 貸 借 対 照 表

平成 26 年(2014 年) 3 月 31 日現在

**【通常会計分】**

(単位 : 円)

<資産の部>		<正味財産の部>	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 現金	79,515	1. 基本財産	0
2. 郵便普通貯金	489,268	2. 任意積立金	0
3. 銀行普通預金	692,487	3. 次期繰越金	1,261,670
4. 振替郵便貯金	0		
資産合計	1,261,670	正味財産合計	1,261,670

**【特別会計:10周年記念事業準備金用】**

(単位 : 円)

<資産の部>		<正味財産の部>	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 現金	0	1. 基本財産	0
2. 郵便普通貯金	0	2. 任意積立金	0
3. 銀行普通預金	399,968	3. 次期繰越金	399,968
4. 振替郵便貯金	0		
資産合計	399,968	正味財産合計	399,968

## 収 支 明 細 表

平成 26 年(2014 年) 3 月 31 日現在

【通常会計分】

(単位：円)

項 目	予算	決算	差異	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
1)会費収入	366,000	255,440	△110,560	86 名分の入金
2)賛助会費	30,000	29,670	△330	
3)同窓会支援金	1,000,000	1,000,000	0	
4)繰入金	1,477,697	1,477,697	0	
5)その他	――	112,281	112,281	
当期収入合計(A)	2,873,697	2,875,088	1,391	
<b>II. 支出の部</b>				
1)印刷代	900,000	367,665	△532,335	会報, ガイドブック, 各種資料
2)通信費	120,000	127,294	7,294	ホスティング, 郵便料, 各種手数料
3)事務用品	100,000	65,051	△34,949	事務用品, 参考書籍, OA ソフト
4)交通費	250,000	278,010	23,010	役員会交通費, 活動交通費
5)その他経費	700,000	575,398	△124,602	会議費, 総会費用, 講演料
6)10 周年記念事業準備金	200,000	200,000	0	特別会計へ繰入
当期支出合計(B)	2,270,000	1,613,418	△656,582	
当期収支合計(A-B)	603,697	1,261,670	657,973	(次期繰越金)

【特別会計:10 周年記念事業準備金用】

(単位：円)

項 目	予算	決算	差異	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
1)H25 年度積立金	200,000	200,000	0	
2)繰入金	200,000	200,000	0	
3)その他	――	73	73	利息
当期収入合計(A)	400,000	4,00,073	73	
<b>II. 支出の部</b>				
1)通信費	――	105	105	H25 年度積立金入金時手数料
当期支出合計(B)	――	105	105	
当期収支合計(A-B)	400,000	105	399,968	(次期繰越金)

## 平成25(2013)年度 監査証明書

平成25(2013)年度の収支決算書および貸借対照表について監査の結果、  
適正かつ正確であることを証明いたします。

平成26年04月20日

千葉工業大学技術士会

監事 松野 勝



### 1.2.4 その他

- ・議長より、今回の議案・報告事項に関する事項およびその他の事項について、追加審議確認があり、質問事項無いことを確認した。

### 1.2.5 閉会

- ・以上をもって、第9回総会のすべての審議が終了し、久多羅木副会長より総会の終了が宣言され閉会した。

## 1.3 第9回総会議事録

### 千葉工業大学技術士会 第9回（平成26年度）総会 議事録

【開催日時】平成26年7月5日（土）13:30～14:40

【開催場所】千葉工業大学 2号館 2階 会議室3・4

【出席者】（顧問・役員）

顧問：金子和弘，近藤 誠，内海秀幸，高橋芳弘

名誉会長： 溝邊哲男

会長： 山下幹夫

副会長： 久多羅木吉治，町田文男

理事： 佐々木武彦，秋山勇治，相馬 裕，黒澤伸好，河瀬日吉，堀田 光，小笠原睦，今井 誠

監事：（松野 勝：急病により欠席）

【議事内容】

#### 1. 議長・議事署名人の選出、および総会成立の確認

(1) 議長の選出

- ・会則第13条（職務）に則り、総会の議長を山下会長とした。

(2) 議事録署名人の選出

- ・立候補者不在により、議事録署名人は事務局にて選出した下記の2名に依頼した。  
金井 誠一郎 様（昭和55年 土木科卒），吉田彰男 様（昭和62年 土木科卒）

(3) 総会成立の確認

- ・当会 会員総数 125名に対し、出席者 29名，議決権の議長委任者 40名（合計 69名）。即ち、委任状を含め、過半数以上の出席により、本総会は有効に成立することを確認した。

#### 2. 議 事

##### 2-1. 第1号議案：平成25年度事業（活動）報告の件 および

##### 第2号議案：平成25年度収支決算・監査報告の件

- ・町田氏より、第1号議案資料に基づき、平成25年度における当技術士会活動について説明された。続いて、小笠原氏より、第2号議案資料に基づき、平成25年度の決算内容について説明があった。また、河瀬氏（松野氏の代理）より、監査結果が適正かつ正確である旨の報告がなされ、議案承認された。

- ・質疑応答は下記の通り。

Q1. ニュースCITへの記事掲載はされたか？

→（事務局）紙面の都合上、今年度は掲載できなかった。

Q2. 会員の増減

→（事務局）技術士補の方が1名退会された。会員増はなし。

※ 但し、総会当日、受付にて1名、新会員への登録依頼があった。

Q3. 10周年記念事業準備金の使用目的は？

→ 後述の各委員会報告（第6号報告）にて説明する事とした。

Q4. 会計報告において、例年、技術士受験ガイドブックの印刷は大学にて実施しているにも拘らず、平成25年度予算として計上した理由は？

→（事務局）本項の計上については事務局のミスである。平成26年度予算では未計上としている。

**2-2. 第3号議案：平成26年度事業（活動）計画 および**

**第4号議案：平成26年度事業予算の件**

・町田氏より、第3号議案資料に基づき、平成25年度における当技術士会の活動計画が説明された。引き続き小笠原氏より、第4号議案資料に基づき、同年の活動予算について説明がなされ、議案承認された。

・質疑応答は下記の通り。

Q1. 会員数の増加についての記載がないが、具体策はあるか？

→（山下氏）個人的には卒業生の技術士受験数の増加、さらに合格者の当会への参加が重要と考えている。このため、受験支援委員会との協力による活動 および ホームページの充実といったことを検討している。

（久多羅木氏）後述の議案（第6号議案）でも説明するが、会則を変更し、学生のうちに当会を認知・理解・参加して頂くとともに、当会としても援助を行っていきたい。

Q2. 当会の会員になる事のメリットとは何か？

→（山下氏）社会貢献というものをどの様に表現できるかを今後とも継続審議したいと考えている。

（久多羅木氏）会長のいわれる社会活動の一環として10周年記念事業を捉え、有意義な事業としたいと考えている。

26年度における活動予定について報告があった。

**3-3. 第3号報告 : 広報委員会 活動報告**

・第3号報告資料に基づき、山下氏より平成25年度の活動実績について、次に河瀬氏より平成26年度の活動予定について報告があった。

**3-4. 第4号報告 : 特別講義実行委員会 活動報告**

・堀田氏より、第4号報告資料に基づき、平成25年度の活動実績と、平成26年度の活動予定について報告があった。

**3-5. 第5号報告 : 10周年記念事業実行委員会 活動報告**

・相馬氏より、第5号報告資料に基づき、平成25年度の活動実績と、平成26年度の活動予定について報告があった。

・頂いたご意見は下記の通り。

① ニュース CIT への当会からの投稿について大学に確認して欲しい。

② 首都圏だけではなく、地方の方にも還元できる10周年記念事業を検討して欲しい。

**3-6. 第6号報告 : 大学技術士会連絡協議会の件**

・町田氏より、第6号報告資料に基づき、同協議会への参加大学、および、大学別の技術士1次試験・2次試験の合格者数について報告があった。

**3-6. 第7号報告 : 当技術士会 会員動向の件**

・町田氏より、第7号報告資料に基づき、当技術士会の会員動向（会員数、都道府県別・出身学科別・技術士部門別）について報告があった。

**4. 閉会**

・以上をもって第9回総会のすべての審議が終了し、久多羅木氏より総会の終了が宣言され、閉会した。

議事録署名人 金井 誠一郎 様 (昭和55年 土木科卒)

吉田 彰男 様 (昭和62年 土木科卒)



## 2. 第 10 回総会報告

(活動期間；平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

### 2. 第 10 回総会報告

#### 2.1 総会議事録

開催日時 平成 27 年 7 月 4 日 (土) 13:00～14:00

開催場所 千葉工業大学 4 号館 431 階段教室

出席者 (顧問・役員・委員)

顧問；高橋 芳弘

会長；山下 幹夫

副会長；久多羅木 吉治

理事；佐々木 武彦 秋山 勇治 相馬 裕 黒澤 伸好

町田 文男 河瀬 日吉 堀田 光 小笠原 睦 今井誠

監事；松野 勝

会員；会員数 124 名 委任状 36 名 出席者 28 名 合計 64 名

#### 2.2 議事内容

##### 2.2.1 議長・議事署名人の選出および総会設立の確認

###### (1) 議長選出

会則第 13 条 (職務) に則り、山下会長を総会の議長とした。

###### (2) 議事録署名人の選出

立候補者不在のため、議事録署名人は事務局によって選出した下記の 2 名に依頼した。

宮前 保美様 三森 昌典様

###### (3) 総会設立の確認

本会員総数 124 名に対し、出席者 28 名、議決権の議長委任者 36 名 (合計 64 名) により過半数以上の出席により、本総会は有効に成立することを確認した。

###### (4) 祝電紹介

日本技術士会、東京都市大学技術士会 (柏門会) 等の祝電紹介。

##### 2.2.2 議事

###### (1) 第 1 号議案；平成 26 年度事業 (活動) 報告の件

・町田事務局長より第 1 号議案資料に基づき、平成 26 年度における本学技術士会の活動報告がなされ、議案承認された。また、松野監事より、監査結果が適性かつ正確である旨の報告がなされ、議案承認された。

###### 【要旨】

平成 26 年度においても、例年通り本会設立の趣旨に沿って、会員相互の交流・研鑽、本学の教育と研究への協力・支援並びに卒業生・院生・学生への技術士、技術士補資格取得のための支援を継続しました。また、平成 27 年 7 月の総会後に実施した本学技術士会 10 周年記念事業に向けた取り組みを実施しました。

① 会員通信 (No. 10 2015 未発行)；平成 28 年度に 10, 11 合併号として計画する。

② 技術士ホームページの更新

③ JABEE コース学生への特別講義と JABEE 認定プログラムの支援



- ・特別講演として電気電子情報工学科に技術者倫理を、機械サイエンス学科には機械工学演習をそれぞれ4回開催した。
- ④ 技術士制度の啓蒙
  - ・校友タイムスへの受験情報の記事掲載
  - ・「技術士への挑戦ガイドブック」の発行
- ⑤ 大学・同窓会事務局および産学官融合センターとの連携強化
  - ・千葉工業大学産官学連携フォーラムへの出席
- ⑥ 特別講演会の実施・「グローバル時代の工学教育」との題目で、小宮学長に講演を依頼。(第Ⅲ編に掲載)
- ⑦ 日本技術士会、大学技術士会連絡協議会との連携
  - ・蔵前工業会(東京工業大学)、日本技術士会千葉県支部、弾性波診断技術協会等の開催する技術講演会、シンポジウムへの参加および日本技術士会賀詞交歓会、大学技術士連絡協議会総会への参加。
- ⑧ 会員パーソナルデータの整備と活用
- ⑨ 正会員・賛助会員の増員

(2) 小笠原副事務局長より第2号議案資料(P15～P17参照)に基づき、平成26年度の決算報告がなされた。

(3) 第3、4号議案；平成27年度における事業(活動)計画および予算案の件  
 ・町田事務局長より第3号議案資料に基づき、平成27年度における本学技術士会の活動計画が説明された。引続き小笠原副事務局長より第4号議案資料に基づき、同年の活動予算について説明がなされ議案は承認された。

**【要旨】**

平成27年度においても、例年通り本会設立の趣旨に沿って、会員相互の交流・研鑽、本学の教育と研究への協力・支援並びに卒業生・院生・学生への技術士、技術士補資格取得のための支援を継続する。平成27年7月実施予定の本学技術士会10周年記念事業に向けた取り組みを本格的に実行する。

- ① 会員通信(No.10 2015)の発行；発行に至らずNo.10,11号合併号とする
- ② 技術士ホームページの充実(事務局担当)
- ③ JABEEコース学生への特別講義とJABEE認定プログラムの支援
- ④ 技術士制度の啓蒙；NEWSCIT、校友タイムスへの受験情報の記事掲載、「技術士への挑戦ガイドブック」の発行
- ⑤ 大学・同窓会事務局との連携強化
- ⑥ 10周年記念式典・特別講演会の実施
- ⑦ 日本技術士会、大学技術士会連絡協議会との連携
- ⑧ パーソナルデータの整備と活用
- ⑨ 正会員・賛助会員の増員
- ⑩ 独自活動の計画

当会主催による独自活動として、ミニフォーラムの実施を検討する。

(4) 第5号議案；平成27年度役員の内

- ・町田事務局長より第5号議案資料に基づき、平成27年度における本学技術士会の役員選出について説明され、下記のとおり議案承認された。

**【平成27年度顧問・役員】**

- 最高顧問：小宮 一仁(学長)  
 名誉顧問：本岡 誠一(前学長)  
 顧問：竹田 康弘(理事) 近藤 誠(研究支援部長)  
           高橋 芳弘(機械サイエンス学科) 内海 秀幸(建築都市環境学科)  
 名誉会長；溝邊 哲男(電気36年)  
 理事(会長)：山下 幹夫(土木44年)  
 理事(副会長)：久多羅木 吉治(土木46年) 町田 文男(土木50年)  
 理事：佐々木 武彦(機械36年) 秋山 勇治(電気37年)  
           相馬 裕(土木42年) 黒澤 伸好(金属修士47年)  
           河瀬 日吉(土木51年) 堀田 光(土木53年)  
           小笠原 睦(電気56年) 五嶋 智久(機械H8年)  
           今井 誠(精密機械修士H11年)  
 監事：松野 勝(土木63年)

**1.2.3 報告**

(1) 第1号報告；平成26年度 委員会および委員の内

- ・町田事務局長より第1号報告書に基づき、平成26年度における本学技術士会の各委員会および所属委員について下記のとおり報告があった。

《平成27年度各種委員会、事務局委員》

組織・担当	役職	氏名
受験支援委員会	委員長	久多羅木 吉治
	副委員長	黒澤 伸好
	委員	桶川 幸二(機械51年)
広報委員会	委員長	河瀬 日吉
	副委員長	五嶋 智久(機械H8年)
	委員	横尾 徹(土木57年) 望月 直(機械H9年)
特別講義実行委員会	委員長	堀田 光
	副委員長	佐々木 武彦
	委員	秋山 勇治、相馬 裕、今井 誠
	JABEE 担当	小久保 優(土木52年)
大学技術士会連絡協議会		町田 文男
事務局	事務局長	町田 文男
	副事務局長	小笠原睦
10周年記念事業実行委員会	委員長	相馬 裕
	副委員長	河瀬 日吉 今井 誠
	委員	理事全員

注]平成26年度に同じ

(2) 第2号報告；受験支援委員会活動報告

- ・受験支援委員会の久多羅木委員長より、第2号報告資料に基づき、平成26年度の活動実績と平成27年度における活動予定について報告があった。
- ・技術士資格取得に関し在学生、卒業生に向け、支援委員会の意義について報告があった。

(3) 第3号報告；広報委員会 活動報告

- ・広報委員会の河瀬委員長より、第3号報告資料に基づき、同委員会における平成26年度の活動実績と平成27年度における活動予定について報告があった。
- ・当初予定した「会誌」第10号発行が叶いませんでしたことをお詫びし、平成28年度に10,11号合併号とする事をお伝えしました。
- ・特別講演について  
千葉工業大学小宮学長をお迎えし、「グローバル化時代の工学教育」と題して、津田沼校舎の2号館会議室1・2において開催しました。詳しくは、第Ⅲ編に掲載します。

(4) 第4号報告；特別講義実行委員会活動報告

- ・特別講義実行委員会の堀田委員長より、第4号報告資料に基づき、平成26年度の活動実績と平成27年度の活動状況の中間報告、および、今後の予定について報告があった。  
電気電子情報工学科、機械サイエンス学科、建築都市環境学科において特別講演が実施されました。

1. 電気電子情報工学科

講義名 「技術者倫理」

	講義名	担当技術士（部門）	実施日
1	JABEEの審査基準とAPEC、EMFについて	小久保 優（建設、環境）	H26.12.9
2	エンジニアリングと海外プロジェクト	奥山 晴及（経営工学）	H26.12.16
3	国際規格と相互認証の動向	久多羅木 吉治（建設）	H27.1.13
4	技術士制度、技術者人生	溝邊哲男（電気電子）	H27.1.20

2. 機械サイエンス学科

講義名 「機械工学演習」

	講義内容	担当技術士（部門）	実施日
1	技術士の概要説明 技術士としての経験談	佐々木 武彦（機械）	H26. 10. 23
2	受験の動機付け 技術士としての経験談	今井 誠（機械）	H26. 10. 30
3	技術士の役割 技術士の経験談	堀田 光（建設）	H26. 11. 6
4	大学講義と社会 就職活動へのアドバイス	五嶋智久（建設）	H26. 12. 4

3. 建築都市環境学科

講義名 「建設コンサルタントおよび橋梁設計業務」

	講義内容	担当技術士（部門）	実施日
1	技術士の概要説明 建設コンサルタントとは 橋梁業界の紹介 技術士としての経験談	河瀬 日吉（建設、総合監理）	H27. 6. 26

※平成 27 年度以降においても、電気電子情報工学科、機械サイエンス学科、建築都市環境学科等からの要請を受けております。

(5) 第 5 号報告 ; 10 周年記念事業実行委員会活動報告

10 周年記念事業実行委員会の相馬委員長より、第 5 号報告資料に基づき、平成 26 年度の活動実績と平成 27 年度の活動状況の中間報告、および、今後の予定について報告があった。

開催要旨は以下のとおり決定し、盛況な内に実施されたことを本号において報告します。

開催日時 ;平成 27 年 7 月 4 日（土）

開催会場 ;千葉工業大学 4 号館 431 階段教室

講演者 ;ちばぎん総合研究所取締役社長 水野創氏

講演テーマ;「今後の首都圏経済の展望と科学技術に期待されるもの」

尚、特別講演の前に、河瀬広報委員長より「千葉工業大学技術士会 10 年のあゆみ」が紹介されました。

(6) 第6号報告；大学技術士会連絡協議会の件

- ・大学技術士会連絡協議会担当の町田事務局長より第6号報告資料に基づき、同協議会への参加大学および大学別の技術士1次試験・2次試験の合格者について報告があった。
- ・大学技術士会連絡協議会参加大学 26校

(7) 第7号報告；本学技術士会会員動向の件

- ・町田事務局長より第7号報告資料に基づき、本学技術士会の会員動向（会員数、都道府県・出身学科別・技術士部門別）について報告があった。
  - ・正会員数 120名（技術士 104名、技術士補 16名）
  - 賛助会員 1名、特別会員 3名
  - 前年度より 1名減となった。

(8) 第8号報告；日本技術士会との相互協力協定締結の件

- ・久多羅木副会長より第8号報告資料に基づき、日本技術士会との相互協力協定が締結された旨、報告された。（第7編に資料添付）

## 平成 26 年度 決算報告

(活動期間 : 平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日)

### 貸 借 対 照 表

平成 27 年(2015 年) 3 月 31 日現在

**【通常会計分】**

(単位 : 円)

<資産の部>		<正味財産の部>	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 現金	58,377	1. 基本財産	0
2. ゆうちょ普通貯金	469,686	2. 任意積立金	0
3. 銀行普通預金	892,979	3. 次期繰越金	1,421,042
4. 振替郵便貯金	0		
資産合計	1,421,042	正味財産合計	1,421,042

**【特別会計:10周年記念事業準備金用】**

(単位 : 円)

<資産の部>		<正味財産の部>	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 現金	41,568	1. 基本財産	0
2. ゆうちょ普通貯金	0	2. 任意積立金	0
3. 銀行普通預金	500,051	3. 次期繰越金	541,619
4. 振替郵便貯金	0		
資産合計	541,619	正味財産合計	541,619

**収 支 明 細 表**  
平成 27 年(2015 年) 3 月 31 日現在

【通常会計分】

(単位：円)

項 目	予算	決算	差異	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
1)会費収入	255,000	219,450	△35,550	85名→73名(△12名)
2)賛助会費	30,000	29,870	△130	振込手数料分の差額
3)同窓会支援金	1,000,000	1,000,000	0	
4)繰入金	1,261,670	1,261,670	0	
5)その他	———	169,211	169,211	祝金, 利息 他
<b>当期収入合計(A)</b>	<b>2,546,670</b>	<b>2,680,201</b>	<b>133,531</b>	
<b>II. 支出の部</b>				
1)印刷代	400,000	5,464	△394,536	会報, 各種資料(会報未発行)
2)通信費	130,000	118,989	△11,011	ホスティング, 郵便料, 各種手数料
3)事務用品	70,000	19,927	△50,073	事務用品, 参考書籍, OAソフト
4)交通費	300,000	217,400	△82,600	役員会交通費, 活動交通費
5)その他経費	600,000	697,379	97,379	会議費, 総会費用, 講演料
6)10周年記念事業準備金	200,000	200,000	0	特別会計へ繰入
<b>当期支出合計(B)</b>	<b>1,700,000</b>	<b>1,259,159</b>	<b>△440,841</b>	
<b>当期収支合計(A-B)</b>	<b>846,670</b>	<b>1,421,042</b>	<b>574,372</b>	<b>(次期繰越金)</b>

【特別会計:10周年記念事業準備金用】

(単位：円)

項 目	予算	決算	差異	備 考
<b>I. 収入の部</b>				
1)H26年度積立金	200,000	200,000	0	
2)繰入金	399,908	399,908	0	
3)その他	———	143	143	利息
<b>当期収入合計(A)</b>	<b>599,908</b>	<b>600,051</b>	<b>143</b>	
<b>II. 支出の部</b>				
1)通信費	0	0		H25年度積立金入金時手数料
2)交通費	50,000	44,000	△6,000	
3)その他経費	20,000	14,432	△5,568	
<b>当期支出合計(B)</b>	<b>70,000</b>	<b>58,432</b>	<b>△11,568</b>	
<b>当期収支合計(A-B)</b>	<b>529,908</b>	<b>541,619</b>	<b>11,711</b>	<b>(次期繰越金)</b>

## 平成26(2014)年度 監査証明書

平成26(2014)年度の収支決算書および貸借対照表について監査の結果、  
適正かつ正確であることを証明いたします。

平成27年04月23日

千葉工業大学技術士会

監事 松野 勝



### 2.2.4 その他

- ・議長より、今回の議案・報告事項に関する事項およびその他の事項について、追加審議確認があり、質問事項無いことを確認した。

### 2.2.5 閉会

- ・以上をもって、第10回総会のすべての審議が終了し、久多羅木副会長より総会の終了が宣言され閉会した。



## 2.3 第10回総会議事録

### 千葉工業大学技術士会 第10回（平成27年度）総会 議事録

【開催日時】平成27年7月4日（土）13:00～14:00

【開催場所】千葉工業大学 4号館 431階教室

【出席者】（顧問・役員）

顧問：竹田康宏，近藤 誠，内海秀幸，高橋芳弘

名誉会長：溝邊哲男

会長：山下幹夫

副会長：久多羅木吉治，町田文男

理事：佐々木武彦，相馬 裕，黒澤伸好，堀田 光，小笠原睦，今井 誠

監事：松野 勝

【議事内容】

#### 1. 議長・議事署名人の選出、および総会成立の確認

(1) 議長の選出

- ・会則第13条（職務）に則り、総会の議長を山下会長とした。

(2) 議事録署名人の選出

- ・立候補者不在により、議事録署名人は事務局にて選出した下記の2名に依頼した。  
宮前保美 様（昭和52年 土木科卒），三森晶則 様（昭和52年 土木科卒）

(3) 総会成立の確認

- ・当会 会員総数 124名に対し、出席者 28名，議決権の議長委任者 36名（合計 64名）。即ち、委任状を含め、過半数以上の出席により、本総会は有効に成立することを確認した。

#### 2. 議 事

##### 2-1. 第1号議案：平成26年度事業（活動）報告の件 および

##### 第2号議案：平成26年度収支決算・監査報告の件

- ・町田事務局長より、第1号議案資料に基づき平成26年度における当技術士会活動について説明があった。続いて、小笠原副事務局長より、第2号議案資料に基づき平成25年度の決算内容について説明があった。また、松野監事より、監査結果が適正かつ正確である旨の報告があり、議案承認された。

##### 2-2. 第3号議案：平成27年度事業（活動）計画 および

##### 第4号議案：平成27年度事業予算の件

- ・町田事務局長より、第3号議案資料に基づき平成27年度 当技術士会の活動計画について説明があった。引き続き小笠原副事務局長より、第4号議案資料に基づき同年の活動予算について説明があり、議案承認された。

##### 2-3. 第5号議案：平成27年度顧問および役員等 選出の件

- ・町田事務局長より、第5号議案資料に基づき、平成27年度における当技術士会の顧問および役員等の選出について説明があり、議案承認された。

### 3. 報 告

#### 3-1. 第1号報告 : 平成27年度 各種委員会の件

- ・町田事務局長より、第1号報告資料に基づき平成27年度における当技術士会の各委員会および所属委員について報告があった。

#### 3-2. 各種委員会 活動実績・予定報告

- ・下記の4委員会より平成26年度の活動実績と平成27年度の活動予定について報告があった。
  - 第2号報告 : 受験支援委員会 活動報告 (受験支援委員会 久多羅木委員長)
  - 第3号報告 : 広報委員会 活動報告 (広報委員会 河瀬委員長)
  - 第4号報告 : 特別講義実行委員会 活動報告 (特別講義実行委員会 堀田委員長)
  - 第5号報告 : 10周年記念事業実行委員会 活動報告 (特別講義実行委員会 相馬委員長)
- ・頂いたご意見は下記の通り。
  - ① 大学技術士会同志の連携など、外部団体との交流は良い事であり、継続して実施して欲しい。

#### 3-3. 第6号報告 : 大学技術士会連絡協議会の件

- ・大学技術士会連絡協議会 町田担当より、第6号報告資料に基づき、同協議会への参加大学 および 大学別の技術士1次試験・2次試験の合格者数について報告があった。

#### 3-4. 第7号報告 : 当技術士会 会員動向の件

- ・小笠原副事務局長より、第7号報告資料に基づき、当技術士会の会員動向 (会員数、都道府県別・出身学科別・技術士部門別) について報告があった。

#### 3-5. 第8号報告 : 日本技術士会との相互協力協定締結報告

- ・久多羅木副会長より、第8号報告資料に基づき7月1日付で日本技術士会との相互協力協定を締結した旨の報告があった。

### 4. 閉 会

- ・以上をもって第10回総会のすべての審議が終了し、久多羅木副会長より総会の終了が宣言され、閉会した。

議事録署名人 宮前 保美 様 (昭和52年 土木科卒)

三森 晶則 様 (昭和52年 土木科卒)



### 3. 特別講演会

#### 3.1 第9回特別講演会

平成26年総会終了後、小宮学長をお迎えし「グローバル化時代の工学教育」と題して、特別講演会を津田沼校舎の新館教室で開催しました。講演会は周辺地域の方々、在校生、先生方、総会出席者等を対象に多くの方々にお集まりいただきました。

小宮学長は早稲田大学理工学部土木工学科1987年学部卒、89年大学院卒、92年後期博士課程単位取得満期退学された後、2001年には本学建築都市環境学科の教授に就任され、2012年6月より本岡前学長の後を受けて本学学長となりました。主に「シールドトンネル工事に伴う近接施工の影響評価に関する研究」等、地下空間の施工に関する影響解析手法の確立に業績を残されており、1998年には、イギリスケンブリッジ大学工学部にて専任助講師に従事されました。

2011年東日本大震災による福島第一原子力発電所事故における原子炉建屋内探査ロボット「Quince(クインス)」の活躍、2014年7月21～24日にブラジルのジョアン・ペソアで行われた「ロボカップ2014世界大会」ヒューマノイドリーグキッドサイズ部門で完全優勝し、同大会で最も優秀なロボットが選ばれる「ベストヒューマノイド」に選出され、「ルイ・ヴィトン・ヒューマノイドカップ」を獲得するなど、多方面における話題提供により本学の知名度向上に大いに力を発揮されています。

千葉工業大学技術士会としては、平成24年の学長就任を機に記念講演をお願いしました。

小宮学長からは、ご自身の研究テーマである「土質工学」研究の一端から、マスコミ等で紹介された最近のロボット研究のプレゼンテーション等、幅広く講演を戴きました。

ご自身のイギリス時代の話は、まさに「グローバル化時代の工学教育」に相応しい内容で、今後の、技術者に必要なソースとして海外を視野においた研鑽が重要であるとの思いを強くした次第です。講演用資料等を提供戴けなかったことから、講演概要報告紹介とさせて頂きました。

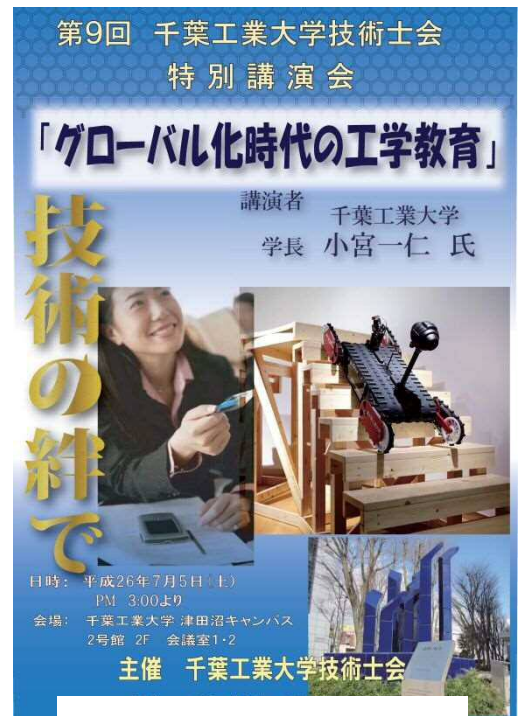


図-1 講演ポスター



講演者 小宮一仁本学学長



特別講演会 会場

### 3.2 第10回特別講演会

平成27年総会終了後、ちばぎん総合研究所取締役社長水野創氏をお迎えし「今後の首都圏経済の展望と科学技術に期待されるもの-2005年から2015年そして2025年位に向けて」と題したご講演を頂きました。講演では水野様の日銀時代のキャリアを十分活かした、説得力ある数値を多用され、今後の技術開発が技術立国を目指す我が国にとって望まれおり、特に千葉県、茨城県等の多様性のある地域での発展が期待されるとのご示唆を頂きました。この会場には本技術士会会員はもとより、大学関係者、同窓会員、学生、近隣住民を始め、交流する各技術士会の会員や大学技術士会連絡協議会に名を連ねる各大学技術士会の代表的メンバー等、多数の参加を頂き、熱心な質疑応答が交わされる等盛況にて終了致しました。



水野社長



会場の様子 4号館 431教室



懇親会後の記念撮影



# 2015年度 千葉工業大学技術士会

設立10周年記念  
**特別講演会**

「今後の首都圏経済の展望と  
科学技術に期待されるもの」  
『2005年から2015年、そして2025年に向けて』

講演者 **ちばぎん総合研究所  
取締役社長 水野 創 氏**

**平成27年7月4日(土) 14:00~16:00**

**千葉工業大学  
津田沼校区 4号館431教室**



会場 略図

主催 **千葉工業大学技術士会**

後援 千葉工業大学  
千葉工業大学同窓会

申し込み先 千葉工業大学研究支援部 産官学融合課内  
技術士会事務局 FAX 047-478-0434

# 科学が経済をけん引

## 千葉工業大 学技術士会 10周年記念特別講演会

千葉工業大学技術士会（山下幹夫会長）は4日、津田沼キャンパスで10周年記念講演会を開き、これまでの10年間の足跡を振り返るとともに、特別講演のテーマの、科学技術と日本経済の持続的な発展についての今後のあり方をもとに考えた。

講演会に先立ちあいさつに立った山下会長は、技術士の成り立ちやこれまでの活動状況を報告し、「これまでも地震や電力の問題について、グローバルな視点から講師をお招きし講演会を開いてきた。今回は、10周年にふさわしい講師で、これまでの10年、そしてこれからの10年を見通したテーマでお話をいただく」と、有意義な講演会となることを祈念した。

引き続き、河瀬日吉広 報委員長が10年の歩みを紹介した。創設は全国大学中7校目で、▽卒業生・学生、大学院生の資格取得支援▽大学の研究成果の事業化への協力、支援▽産官学連携による技術・情報振興会の活動に協力、支援—などがこれまでに行われている。

記念特別講演は、(株)ばぎん総合研究所の水野創代表取締役社長が「今後の首都圏経済の発展と科学技術に期待されるもの〜2005年から2025年、そして2025



年に向けて」と題して行った。水野氏は、東京大学法学部卒、日本銀行で理事などを歴任、平成22年6月からちはぎん総合研究所取締役社長を務めている。講演の中では、首都圏経済の現状と展望について触れ、首都圏経済のうち1都4県の特徴、進む二極化と産業構造の変



講師の水野氏

とした。千葉のブランド力、すなわち千葉の魅力が増していること、裏図けとなることに期待される。

化、今後の主要イベントと対応について、最新データの数値を示して指摘した。千葉県に関しては、商業に大きなウエートがかかる一方、農業の生産性も高く、観光宿泊客も多しなどの優位性がある。この特徴をどう生かすか、しかも圏央道などの道路インフラが次々に整備されている点に注目したいとした。

その一方、これは1都4県の共通した問題だが、少子高齢化が進むと同時に円高や大震災などの影響で既存産業が衰退し、医療・福祉の分野が事業所・人員ともに新たな伸びを見せている。これは日本全体の潮流の中で起きていて、円安だった時に海外に流れた設備投資が、円高になったからといってすぐには構造転換できないとされた。

人口の問題に関して千葉県は、つくばエクステンションやインフラの整備で頭打ちのよその県に比べ、増加が見込める。特に、今後は2015年の国勢調査の結果に注目したい。

さらに注目されるのは、地方の時代、地方創生といわれながら、地域間格差が広がる一方で、亀田病院のある鴨川市や、旭中央病院のある旭市など、外房地域の周辺自治体が苦戦するなか、住民が増えるところも見られている。

これらの地区では、若者や女性が定住したいという魅力があるまじかという証しとした。まじかくりそのものの見直し、パリアフリーや、コンパクトなまちづくり、老朽化したまちの再生など、地域が生き残りをかけるうえで重要となる。

さらに今後の環境の変化を見極めることも重要になる。東京オリンピック後の経済の閉塞感への対応をにらみつつも、公共インフラの長寿命化や強靱化、成田空港第3滑走路など、人や社会に貢献する科学技術が必要となる。誇りと自信を持つてインベーションを起こす企業が元気になることこそ大切だとした。そのうえで、科学技術（技術士会）へ大きな期待を寄せた。

## 4. 特別講義活動について

千葉工業大学から要請の特別講義について、平成27年度の実施状況と平成28年度の今後の予定について報告致します。

### 4.1 平成27年度の実施状況

平成27年度も千葉工業大学から、特別講義の要請がありました。対象学科は、建築都市環境学科と機械サイエンス学科ならびに電気電子情報工学科の3学科と研究支援部産官学融合課からです。以下に特別講義内容を示します。

#### 4.1.1 建築都市環境学科

建築都市環境学科の森 准教授から特別講義の要請があり、千葉工業大学技術士会として対応致しました。同学科の特別講義内容を以下に示します。

- (1) 講義名：「建設コンサルタントとPC橋の設計他」
- (2) 講義の主旨：講義は、3年生を対象とした技術講習。
- (3) 講義対象者：建築都市環境学科の3年生の学生を対象
- (4) 講義概要 平成27年6月26日（金） 18:10～19:40（第11・12時限）

津田沼キャンパスにて実施

講師：河瀬日吉 氏（技術士（建設部門、総合技術監理部門）八千代エンジニアリング（株））

※ 同特別講義時に千葉工大技術士会編『技術士《国家資格》への挑戦！ガイドブック』を受講生に配布

- ① 「技術士」の概要説明を配布したガイドブックを基にして説明し、建設コンサルタント業界の現状紹介を行った。
- ② 技術士としての経験談：鋼橋およびPC橋建設に関する業界の現状紹介と、鉄道PC橋に従事してきた経験談を踏まえ、旧国鉄時代から今日に至るPC鉄道橋の変遷と最近の鉄道PC橋に関して北陸新幹線の事例紹介を行い、橋梁の魅力について説明した。

#### 4.1.2 機械サイエンス学科

機械サイエンス学科の高橋 准教授から、昨年度と同様に「機械工学演習」として4日間の特別講義の要請があり、千葉工業大学技術士会として対応致しました。同学科の特別講義内容を以下に示します。

- (1) 講義名：「平成27年度 機械工学演習」
- (2) 講義の主旨：講義は、3年生を対象とした機械工学演習。

機械サイエンス学科の4専攻コースの内、機械工学コース、機械設計・開発コースの学生を対象とした卒業論文の研究室・卒論テーマの紹介を主として行われるものです。

※ 担当の高橋 准教授からの要望：工学演習なので一方的な講義ではなく、学生とコミュニケーションを取って欲しい。経験談を中心に、技術士の仕事・資格も踏まえて講演する。

- (3) 講義対象者：機械サイエンス学科 4つの専攻コースの内、機械工学コース（3年生）120名、機械設計・開発コース（3年生：JABEE対象コース）40名等の2コースの学生160名を対象
- (4) 講義概要 平成27年10月22日（木）から4回、津田沼キャンパスにて実施

1) 平成27年10月22日 (木) 13:10~14:40 (第5・6時限) 435教室

講師: 佐々木武彦氏 (技術士(機械部門) 所属: 元日立製作所・日立ビルサービス)

※ 同特別講義時に千葉工大技術士会編『技術士《国家資格》への挑戦! ガイドブック』を受講生に配布

- ① 「技術士」の概要説明と技術士取得に際しての講師の経験談; ガイドブックを基にして説明し、「千葉工大技術士会」の活動内容ならびに受験サポートを実施している旨を説明した。
- ② 技術士としての経験談: 職歴を基にしての経験談として、日立製作所勤務時代のモノレール・エレベータ開発技術・日立ビルシステム時代のエレベータメンテナンスなどを講演した。

講師のコメント: 「技術士」の説明は、従来と同じく《ガイドブック》の説明。製品説明(エスカレータ)は実務状況として学生達には興味を持ったようである。追加補充説明として①マーケティングリサーチ②製品開発の心得③技術論文の書き方をしたところ予想外に興味を持ち真剣に聴講していたと感じた。

2) 平成27年10月29日 (木) 13:10~14:40 (第5・6時限) 435教室

講師: 今井 誠氏 (技術士(機械部門) 所属: 石井特許事務所)

- ① 「技術士」を何故目指すのか(動機)と技術士取得に際しての苦労話などを説明した。
- ② 技術士としての経験談: 特許とは何か、特許申請の方法・国際特許などを説明した。

講師のコメント: 技術士取得の意義、知財分野における技術士の果たす役割、大学卒業後から技術士取得までの技術者としてのキャリアの積み方については、特に学生達の関心が高かった。また、海外での勤務における失敗談や経験談が学生達にとっては新鮮だったようで、海外勤務について興味を持ったと感じた。特に英語の必要性について説明した。

3) 平成27年11月 5日 (木) 13:10~14:40 (第5・6時限) 435教室

講師: 堀田 光氏 (技術士(建設部門) 所属: 株式会社 C P C)

- ① 建設系の「技術士」の役割、プレゼンのコツなどを説明した。
- ② 技術士としての経験談: 職務を基にしての防災、地震、洪水、地球温暖化等をキーワードとした最先端技術を紹介した。

講師のコメント: 講義では、技術士資格の重要性、自己アピールの方法、そして日本の防災技術の現状について話題提供を行いました。講義全般を通して、学生の目力を感じました。社会人となつてからの社会貢献のための技術について、例を挙げて説明した。



特別講義状況 講師: 堀田氏

4) 平成27年11月12日 (木) 13:10~14:40 (第5・6時限) 435教室

講師: 五嶋 智久氏 (技術士(建設部門) 所属: 太平電業 株式会社)

- ① 大学講義が会社でどう役立っているか? をテーマに、自社において、大学講義が役立っている科目を挙げ、実際に使っている公式や具体例としての写真、自分で作成した図

面や強度 計算書を示しながら、大学講義が身近で現実的なものを感じられるように説明した。

- ③ 就職活動についてのアドバイス：毎年、自社の採用面接にも携わっているため、採用活動の広報解禁を3月に控えた学生に対して、主観的ではあるが面接官としてのアドバイスを行った。

講師のコメント：質疑応答の時間を設け、講師が一方的に話すのではなく、学生たちと対話することを重視した。また、入社してからのことに関する質問も多くありました。先輩が話すことで学生たちとの距離感が縮まり、講義全体を通じて興味を持って聴いて貰えたと思う。特に大学の授業が、どのように使われるのかを例を挙げて説明した。

高橋准教授から提供された「講義後の感想文の集計データ」では、以下のような記載があった。

- ・ 技術士資格について理解できた。
- ・ 技術士資格を取得したいと思った
- ・ 技術を身につけて社会貢献をし人の役にたつ仕事に就きたい
- ・ 人から必要とされる人材になるよう頑張りたい
- ・ 勉強をし直す。もっと勉強する。
- ・ 勉強方法を改善した方がよいと考えた
- ・ コミュニケーション、特に英語を勉強したい
- ・ 大学の授業が、どのように使われるのかが分かった



特別講義の状況（撮影：高橋 准教授）

#### 4.1.3 電気電子情報工学科

電気電子情報工学科の宮田 准教授から特別講義の要請があり、千葉工業大学技術士会として対応致した。同学科の特別講義内容を以下に示す。

- (1) 講義名：「技術者倫理」  
(2) 講義の主旨：電気電子情報工学科の3年生を対象とした「技術者倫理」に関する講義を行なう。

※ 宮田 准教授からの要望：同科では、進路選択や学習内容と実社会との繋がりについての指導など種々の試みをしており、さらに推進したいと考えており、実社会で活躍しているエンジニアの方々により進路選択時期・就職活動時期を迎える3年生に実学としての工学に関する講演をして頂き、工学と実社会の繋がりや大学での学習内容の価値などを考える機会を与えて頂きたい。

- (3) 講義対象者：第1週から第3週までは、電気電子情報工学科総合システム工学コース（JABEEコース）3年生の30名。第4週については、電気電子情報工学科3年生の約80名。  
(4) 講義概要 平成27年12月22日（火）から4回、津田沼キャンパスにて実施

##### 1) 平成27年12月22日（火）10:40～12:10（第3・4時限）634教室

講師：小久保 優 氏（技術士（建設部門・環境部門）所属：小久保都市計画事務所）

講義題目：「JABEEの審査基準とAPEC、EMFについて」

講師のコメント：「JABEEと技術士の国際化」で訪問した南欧、東アジアでの話題も含めて説明しま

した。経験したJABEE審査の意義と内容、評価委員会等の話題などを学生にアピールしました。

##### 2) 平成28年1月12日（火）10:40～12:10（第3・4時限）634教室

講師：奥山 晴及 氏（技術士（経営工学部門）所属：奥山技術士事務所）



講義題目：「エンジニアリングと海外プロジェクト」

講師のコメント：私自身が海外（米国、東南アジア）にて経験したことをベースに、工場の設計から試運転までのエンジニアリングおよび海外生活の一端について、学生にアピールした。

### 3) 平成28年1月19日（火）10:40～12:10（第3・4時限）634教室

講師：久多羅木 吉治 氏（技術士（建設部門） 所属：東亜建設工業 株式会社）

講義題目：「国際規格と相互認証の動向」

講師のコメント：益々グローバル化するこれからの国際社会に対し、「APECエンジニア」、「EMF国際エンジニア」の両資格に関する最新の動向を解説するとともに、これらの制度と仕組みについて、着目して講義を行いました。

### 4) 平成28年1月26日（火）16:40～18:10（第9・10時限）2号館3階大教室

講師：溝邊 哲男 氏（技術士（電気電子部門） 千葉工業大学技術士会会長）

講義内容：① 千葉工業大学技術士会の紹介

#### ② 技術士制度の概要

- ・ 技術者に対して国、社会、企業は何を期待しているか
- ・ 技術者に対する時代の要請は何か
- ・ 一次、二次試験の概要

#### ③ 技術者倫理（私の体験より）

#### ④ 技術者人生45年の体験談

講師のコメント：今年度も、総合コース以外の学生も自由参加し60名超の学生が聴講し、講義は盛況でした。大学側の要請もあり、特に「技術者人生の体験談から技術者に必要なもの・心得・実社会を生き抜く術」について、時間を割いて説明した。これから始まる就職活動に向け、非常に関心も高く真剣に聴講していた。担当先生以外の教授の方々にも聴講して頂いた。

#### 4.1.4 研究支援部産官学融合課

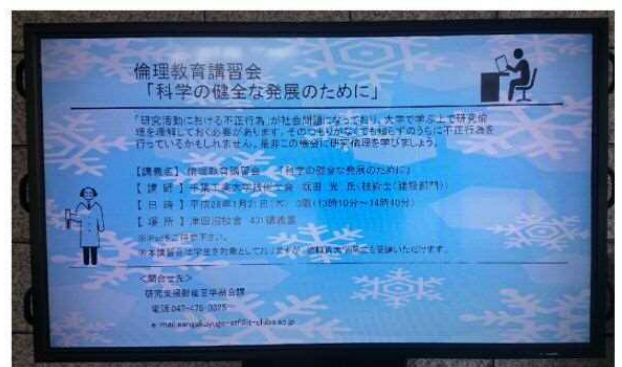
研究支援部の近藤部長から倫理教育講習会の要請があり、千葉工業大学技術士会として対応しました。倫理教育講習会の講義内容を以下に示します。

(1) 講義名；倫理教育講習会「科学の健全な発展のために」

(2) 講義の主旨

；学内案内板より－「研究活動における不正行為」が社会問題になっており、大学で学ぶ上で研究倫理を理解しておく必要がある。そのつもりが無くても知らずのうちに不正行為を行っているかもしれません。是非、この機会に研究倫理を学びましょう－

全学科を対象とした倫理教育講習会として、技術者として「技術者倫理」の重要性ならびに技術者としての心構えなどを基本概念とし学生のモチベーションを上げるための講義内容で行う。



学内案内板

- (3) 講義対象者：第1回1・2年生の全学科を対象 倫理教育講習会、新習志野キャンパス  
第2回3・4年生の全学科を対象 倫理教育講習会、津田沼キャンパス
- (4) 講義概要 平成28年1月14日（木）から2回実施  
担当先生：生命環境科学科 黒崎 教授、研究支援部 近藤 部長

**1) 平成28年1月14日（木）13:10～14:40（第5・6時限）**

講師：堀田 光 氏（技術士（建設部門） 所属：株式会社 CPC）

講義内容：1・2年生を対象とした「研究における不正行為」を主題とした倫理教育講習会。  
対象学科は、全学科を対象として新習志野校舎にて実施。参加は任意とする。

**2) 平成28年1月21日（木）13:10～14:40（第5・6時限）**

講師：堀田 光 氏（技術士（建設部門） 所属：株式会社 CPC）

講義内容：3・4年生を対象とした「研究における不正行為」＋「研究費の不正使用」を主題とした倫理教育講習会。対象学科は、全学科を対象として津田沼校舎にて実施。  
参加は任意とする。

講師のコメント：各講義の最後に「理解度チェック（感想文含む）」を実施した。「講習会に参加し、改めて研究に対する姿勢、考え方について考えさせられた」などの感想が寄せられ、今後の同倫理講習会開催にあたっての参考意見にしたい（別紙参照）。

4.1.5 倫理教育講習会報告

別紙 平成27年度 倫理教育講習会 報告書

2016年2月15日

倫理教育講習会参加者の内訳

開催日	学年	学科					教職員	
		機サ	生環	情報	経情	PM		
1月14日	1		1					
	2							
	3							
	4							
	M1						3	
1月21日	1							
	2		1					
	3		41	5	2	1		
	4	1	10					
	M1		6				3	全体 参加人数
合計		1	59	5	2	1	6	74

【 聴講者感想 】

- ・ 不正に対して間違っ認識していた。
- ・ 講習会に参加し、あらためて研究に対する姿勢、考え方について考えた。
- ・ 論文の不正行為がなぜ問題になっているのかがわかった。
- ・ 研究者の立場になったとき、論文の不正行為によって、信頼をなくすのだとよくわかった。
- ・ 普段のレポート、卒業論文でさえ場合により犯罪になるのだとわかった。
- ・ 論文の引用や実験ノートに注意を払わねばならないことがよくわかった。
- ・ 「論文の撤回」がどんなことを指すのかがよくわかった。
- ・ 捏造や盗用にどのようなことがあてはまるのかがよくわかった。
- ・ 自分の倫理に対する理解が不十分だと実感した。
- ・ 自分が一から考えた文章で作成した論文が他人と被ってしまった場合、対処に困ると思った(盗用になるのか否か)。
- ・ 写真のトリミングも改ざんになるということを知って驚いた。
- ・ 報道されている数よりも、はるかに多数の論文が撤回されているということ、  
FFPは自分で意識しなければかかってしまう病気だとわかった。
- ・ 自分の不正行為によって大学の信用もなくなると肝に銘じたいと思った。
- ・ 昔は他人の論文をコピーすることは難しかったと思うが、今はインターネットによって簡単にできてしまうのだと思った。
- ・ 引用の仕方を間違えていたので、講習に参加してよかったと思った。
- ・ 論文の撤回とは実験や論文がなかったものにされるものだと思っていたが、  
実際は名前が残り、引用不可とされることだとわかった。
- ・ 今まで、研究費についてあまり気にしたことがなかったし、使い方を勘違いしていた。
- ・ 研究者だけではなく、世の中全体で多かれ少なかれ、不正は行われている。  
不正は悪いことだと思うが、なくならと思う。
- ・ 「倫理」がどうかというより、法で規制すべきだと思う。
- ・ 文系の研究者は実験に関する論文の書き方の知識がなかったので勉強になった。  
学生にレポートを提出させる際に引用を明確にするよう盗用に関しての意識を持たせるようにしたいと思う。

以上

## 4.2 平成28年度 今後の予定

次年度（平成28年度）も千葉工業大学から、特別講義の要請がありました。対象学科は、建築都市環境学科、機械サイエンス学科からです。以下に特別講義内容を示します。

### 4.2.1. 建築都市環境学科

建築都市環境学科の多田修二准教授から、昨年度と同様に「構造系演習」として1日間の特別講義の要請があり、千葉工業大学技術士会として対応致します。

同学科の特別講義内容を以下に示します。

- (1) 講義名：「平成28年度 講義内特別講義」
- (2) 講義の主旨：講義は3年生を対象とし、建設コンサルタントにおける橋梁設計業務に関する最近の話題紹介

#### 1) 平成28年6月24日（金）（5時限）

講師：河瀬日吉氏（技術士（建設部門、総合技術監理部門）八千代エンジニアリング（株））

- ① 建設コンサルタントにおける「技術士」の在り方
- ② 技術士としての経験談；職歴を基にした経験談

### 4.2.2. 機械サイエンス学科

機械サイエンス学科の高橋准教授から、昨年度と同様に「機械工学演習」として4日間の特別講義の要請があり、千葉工業大学技術士会として対応致します。

同学科の特別講義内容を以下に示します。

- (1) 講義名：「平成28年度 機械工学演習」
- (2) 講義の主旨：講義は、3年生を対象とした機械工学演習。機械サイエンス学科の4専攻コースの内、機械工学コース、機械設計・開発コースの学生を対象とした卒業論文の研究室・卒論テーマの紹介を主として行われます。

※ 高橋准教授からの要望：

工学演習なので一方的な講義ではなく、学生とコミュニケーションを取って欲しい。経験談を中心に、技術士の仕事・資格も踏まえた内容とする。

- (3) 講義対象者：機械サイエンス学科 4つの専攻コースの内、機械工学コース（3年生）120名、機械設計・開発コース（3年生：JABEE対象コース）40名等の2コースの学生160名を対象
- (4) 講義概要 平成28年10月27日（木）から4回、津田沼キャンパスにて実施  
担当先生：機械サイエンス学科 高橋准教授

#### 1) 平成28年10月27日（木） 13:10～14:40（5・6時限） 435教室

講師：相馬裕氏（技術士（建設部門） 所属：弾性波診断技術協会）

- ① 「技術士」の概要説明と技術士取得に際しての講師の経験談を説明する。
- ② 技術士としての経験談；職歴を基にした経験談。

#### 2) 平成28年11月10日（木） 13:10～14:40（5・6時限） 435教室

講師：今井誠氏（技術士（機械部門） 所属：石井特許事務所）

- ① 「技術士」を何故目指すのか（動機付け）と技術士取得に際しての苦労話などを説明する。
- ② 技術士としての経験談：特許とは何か、特許申請の方法・国際特許などを説明する。

**3) 平成28年11月17日（木） 13:10～14:40（5・6時限） 435教室**

講師：小笠原 睦 氏（技術士（情報工学部門） 所属：株式会社 コーエイシステム）

- ① 「技術士」の役割、情報工学分野などを説明する。
- ② 技術士としての経験談として、情報管理、システム等をキーワードとした最先端技術を紹介する。

**4) 平成28年11月24日（木） 13:10～14:40（5・6時限） 435教室**

講師：五嶋 智久 氏（技術士（建設部門） 所属：太平電業 株式会社）

- ① 大学講義が会社でどう役立っているか？をテーマに説明する。
- ② 就職活動についてのアドバイスを行う。

以 上\_\_

## 5. 特別寄稿文の紹介

### 世界最高レベル級のアスファルト表面遮水壁型フィルダム完成

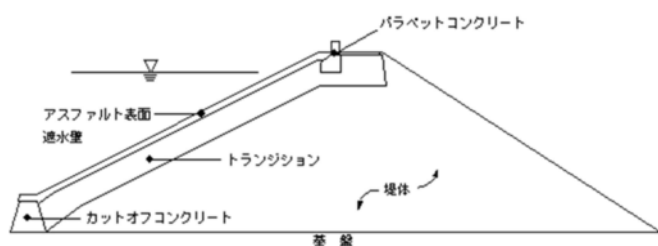
加形 護：昭和 47 年土木工学科卒業 博士（工学）  
技術士（道路）

#### 1. はじめに

フィルダムの遮水壁工法として、アスファルト表面遮水壁工法が適用される理由に、水密性、基盤の変形追従性、極寒冷地での温度応力低減も含めた耐久性などに加え、経済性、施工性、補修の容易性などが挙げられる。我が国に、本格的アスファルト表面遮水壁工法が導入されて、約半世紀が経過した。この間、世界最大規模級や最高レベルにあると考えられるアスファルト表面遮水壁が建設されてきた。本報では、最近完成、運用開始された最大規模・最高レベル級のものを紹介する。

#### 2. アスファルト表面遮水壁工法の概要

アスファルト表面遮水壁（アスファルトフェーシング：AF）型フィルダムの概要を図一1に遮水壁断面例（厚さ15～30cm程度）を図一2に示す。

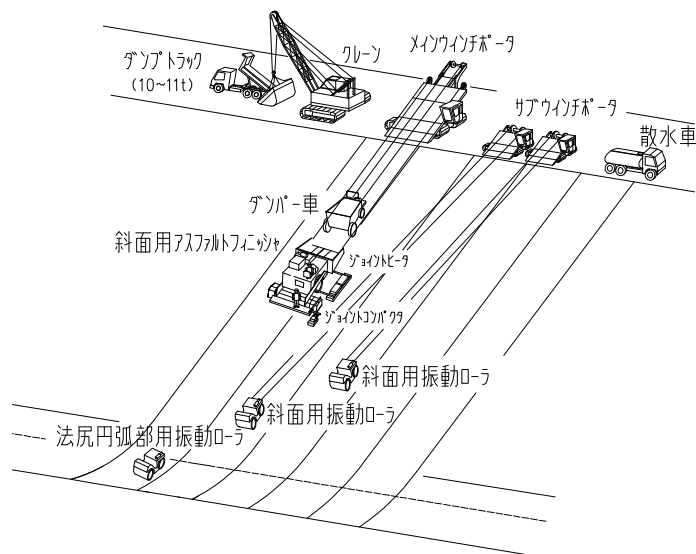


図一1 AF型フィルダム



図一2 AF断面例

施工要領例を図一3に施工状況例を写真-1に示す。



図一3 施工要領例



写真一1 施工状況例

### 3. 最近の適用事例

純揚水式発電所の上池は、高落差による発電効率の向上を求めて、山間奥深く、高標高地点に建設される例が多い。この場合、厳しい気象・施工・環境条件により、「従来になり品質確保・向上」はもとより「環境保全・工期短縮・作業の安全性確保・コスト縮減」などの合理化技術が要求される。また、わが国では、電源開発(株)の「沼原調整池」以降、遮水壁機能として欧米での「貯水」のみでなく「遮水」という概念の技術形態に対応すべく取り分け厳しい技術検討に対応してきた。その後、幾つかのダムで技術向上が図られてきたが、ここでは、これまでの技術集大成がなされたと考えられる、九州電力(株)「小丸川発電所上部調整池」および北海道電力(株)「京極発電所上部調整池」の概要(表一)を紹介する。

表一 小丸川および京極上部調整池の概要

	小丸川	京 極
出力(万 KW)	120	60
堤高(m)	65.5	22.6
H.W.L.(m)	810	890
利用水深(m)	45.0	28.0
有効貯水量(m <sup>3</sup> ) (東京ドーム比)	560 (4.5)	410 (3.5)
遮水壁面積(約万m <sup>2</sup> )	30	18
運用開始時期	H19年	H26年

上記のダムで開発・改善された技術は、施工量増大のための混合物運搬・舗設方法、舗設継目の品質向上、遮水壁構造、情報化施工、表面保護層吹付など、世界の最高レベルをなすものである。

写真一2に施工状況事例、写真一3、4に完成状況を示す。



写真一2 3D-MCによる  
トランジション施工



写真一3 小丸川発電所  
上部調整池



写真一4 京極発電所調整池

現在、いずれの調整池においても漏水もなく、良好に供用されている。

#### 参考文献

加形 護ほか：フィルダム アスファルト表面遮水壁工法における施工合理化技術の変遷、ダム工学2015(投稿中)

## 6. 千葉工大技術士会の現況

### 6.1 千葉工大技術士会の変遷

出身学科	平成17年	平成21年	平成27年
土木	49	70	71
電気	15	14	14
機械	10	13	13
工業化学	3	6	7
建築	5	4	4
金属	3	4	4
電子	3	3	3
精密機械	1	2	2
工業デザイン	1	1	1
工業経営	1	1	0
情報	0	0	1
合計	91	118	120

注) 左上表は、一部の大学を抜粋したものである。

### 6.2 千葉工大技術士会 登録地別分布

住所	平成17年	平成27年	住所	平成17年	平成27年	住所	平成17年	平成27年	住所	平成17年	平成27年
千葉	20	21	北海道	10	7	静岡	1	3	大阪	2	2
東京	28	46	秋田	1	1	山梨	1	1	兵庫	1	1
神奈川	13	15	宮城	1	2	長野	1	1	山口	0	1
埼玉	6	11	福島	2	4				佐賀	2	2
茨城	0	1							福岡	1	0
栃木	1	1									
									合計	91	120



## 7. 日本技術士会との協定

第10回総会において報告しましたが、日本技術士会との間で、技術士制度の広報に関する相互協定を締結しました。今後の広報活動において相互に協力が図られるものと期待します。

### 技術士及び技術士制度の広報に関する相互協力協定

#### (目的)

第1条 公益社団法人日本技術士会（以下「甲」という。）と、千葉工業大学技術士会（以下「乙」という。）は、千葉工業大学における技術士及び技術士制度の広報に当たって、相互協力するため本協定を締結する。

#### (支援内容)

第2条 甲は、乙の会員による千葉工業大学における技術士及び技術士制度の広報活動に当たって、乙の要請に応じて資料提供及び説明者の派遣等の支援の他、当該広報活動に従事した甲の正会員又は準会員については甲が別に定める基準に基づき交通費（実費相当額）の支給を行う。

#### (広報活動)

第3条 乙は、千葉工業大学学生、大学院生、教職員及び卒業生等に対して技術士及び技術士制度の広報機会を設けるべく要請し、広報に当たっては甲の支援の下、誠実に実施するものとする。

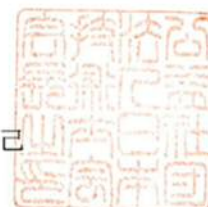
- 2 甲は、甲の会員に対し、乙の活動内容の広報や、乙の入会勧誘活動に協力する。
- 3 乙は、乙の会員に対し、甲の活動内容の広報や、甲の入会勧誘活動に協力する。

#### (事務手続)

第4条 乙から甲への支援依頼、交通費の支給等に当たっての事務手続は、別途定める。

平成27年 7月 1日

甲：公益社団法人 日本技術士会  
会長 吉田 克己



乙：千葉工業大学技術士会  
会長 山下 幹夫



## 8. 外部団体との提携・協力

### 8-1 平成 27 年 10 月 蔵前工業会セミナー参加報告

日 時：平成 27 年 10 月 24 日（土） 13:00～17:40

講演名：「活発化する火山列島・日本」～東工大の取り組み～

講演者：

東京工業大学 草津白根山観測所長 小川康夫教授

火山流体研究センター 野上健治教授

火山流体研究センター 神田径准教授

火山流体研究センター 寺田暁彦講師

大学院理工学研究科地球惑星科学専攻 高橋栄一教授

講演場所：東工大 蔵前会館（東急線大岡山駅前）

参加者：280 名（一般聴講者含む） 参加費 ； 無料

#### 1. はじめに

「活発化する火山列島・日本」と題して、第 33 回蔵前科学技術セミナーが蔵前工業会石田理事長、三島学長を迎えて開催され、地域の方を含め約 300 名の聴講者を集めて盛大に行われました。一般受けするテーマであったことと蔵前工業会HPからのエントリーが可能であったことから、東工大同窓生を含め多数の参加を得たものと考えます。

千葉工大技術士会からは、相馬幹事と河瀬が参加し、蔵前技術士会齋藤会長（応用理学部門）への挨拶の際には、千葉工大技術士会の大学技術士会連絡協議会への積極的参加に謝辞を戴きました。

#### 2. 講演概要

東工大が火山活動データ収集・解析等の面で優れた実績・功績を残していることを報告された。特に、地球物理学、地球化学、地質学の各分野から総合的な研究を行っていることをアピールされ、優秀な人材が我が国のみならず海外にも積極的に活躍されている状況を紹介された。

講演 1；「活発化する火山列島序論」 小川教授

2011 年 3 月の東日本大地震以降、日本列島が引張場に転じたことを報告され、阿蘇山、箱根山、西ノ島、口永良部島等火山活動が活発化している状況を概説された。

講演 2；「我が国における火山研究と東工大の果たしてきた役割」野上教授

1950 年台からの東工大の火山との取り組みを報告され、地球化学的観測研究成果が火山災害軽減のための火山噴火予知・予測野高度化の一端を担っていることを概説された。

講演 3；「電磁場から探る火山の内部」 神田准教授

火山体の内部構造を探る探査方法として、自然の電磁場を利用した地磁気地電流法（MT法）について概説された。地下の比抵抗（電気伝導度の逆数）により深度 25km 以下の構造推測も可能となっている。火山を構成する岩石は電気を通しにくい、マグマ、熱水、熱水変質岩石は低い比抵抗値を示すことから構造を推定している。

講演 4；「空中と地中から探る火山の内部 ； 御嶽山、草津白根山の活発化」 寺田講師

白根山火口に観測所を集中して設置し、地中 100m に設置した傾斜計によって河口深部への熱水の流入状況を捉えたほか、御嶽山ではドローンにより火山ガス組成等のデータ収集に成功したことを報告された。

### 講演 5 ; 「富士山は噴火するか」 高橋教授

2011 年 N3 月の東日本大地震で日本列島の火山の多くが火山活動を再開する段階にある。富士山はユーラシア大陸プレート、北米プレート、フィリピン海プレートの交点という特異な位置にあり、玄武岩マグマの火山である。過去の火山活動履歴、地震トモグラフィーから推定される地下深部の構造、高温高压実験から推定されるマグマ溜りの熱的状态の推測等の総合的情報から富士火山の今後を予測について概説された。

この中で、異常時に繋がる何も起こっていない常時でのモニタリングが重要であることを力説された。

### 3. 感想

我が国では温泉、地熱発電等火山を観光および産業資源として有意義に活用している。一方で、昨年の御嶽山の水蒸気爆発、三原山の噴火、普賢岳噴火等大きな災害を経験している。我が国の火山観測体制は十分であるとは言えないとの指摘があったが、人的被害を極力低減するためにもモニタリング等地道な研究・調査が重要であることを改めて認識した。

### 4. おわりに

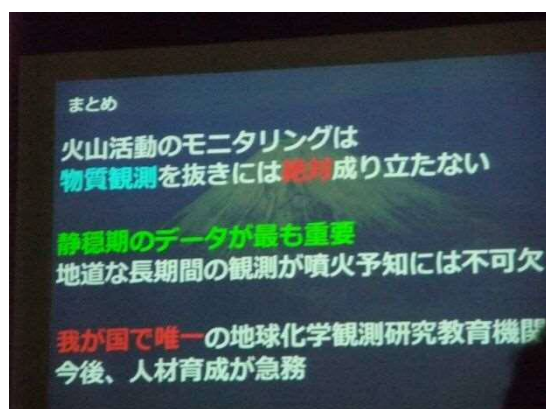
千葉工大技術士会においては 10 周年記念講演会を開催したところであるが、多数の聴講者の参加を期待するに当っては、同窓会の協力を始め、HP の活用も課題として挙げられる。蔵前技術士会は一般社団法人東工大蔵前工業会（東工大同窓会）の一組織として活動しており、千葉工大技術士会にとっても参考になるものと考えます。



蔵前工業会 三島理事長挨拶



講演 1 「活発化する火山列島」



## 8-2 平成 27 年千葉県内技術士会合同勉強会参加報告

日 時 ; 平成 27 年 11 月 16 日 ( 月 ) 18 : 00 ~ 19 : 30

場 所 ; 千葉県商工会議所 14 階第一ホール

講 演 名 ; 『公共事業・インフラ・科学的精神～「国土学」を貫くもの』

講 演 者 ; 国土政策研究所所長、( 公益社団 ) 道路協会会長 大石久和氏

参 加 者 ; 約 120 名 会費 3000 円/人

### 1. はじめに

県内技術士合同勉強会は平成 9 年に県庁技術士会と日本技術士会千葉支部の 2 団体で開始され、現在、船橋市役所技術士会、千葉工大技術士会を加え 4 団体で構成されている。今回の勉強会で 23 回を数え大学教授等学識経験者を始め、国交省、千葉県県土整備部、日本技術士会等から講演者を迎える等その活動は積極的である。

千葉工大技術士会は今回初参加で、久多羅木副会長、町田事務局長、相馬理事、河瀬広報委員長の 4 名が出席した。上記講演会の後、千葉県技術士会会員、県庁職員、船橋市職員等との懇親会が開催された。

### 2. 講演概要

講演に先立ち県技術士会松井会長に続き、山下会長に代わって久多羅木副会長の挨拶では千葉工大技術士会紹介、10 周年記念行事、入会呼びかけ等広く工大技術士会をアピールして戴きました。

大石氏は「**国土学事始め**」等の著書で知られ、国土交通省の要職を勤められた方であり、その深い見識を基に様々なエピソードを交えた講演は、聴講者の好奇心を擽ったものと思います。欧米諸国に比較した我が国のインフラ整備、GDP の推移、エンジニアの資質および地位向上等、広範な話題に対し、様々なデータ資料を基にした興味ある内容であった。キーワードとして、PPT から①サイエンスリテラシー ( 科学的素養 ) の獲得、②ダイバーシティー ( 多様性 ) の拡大、③資格法改正、④国家公務員登用改善 ( 推論と幅広い教養 ) と、最近の著書から「**国土が日本人の謎を解く**」 ( 産経新聞出版 ) を紹介します。

### 3. おわりに

懇親会会場では千葉工大卒業生に千葉工大技術士会への入会を勧誘するなど、相互に忌憚のない意見交換が出来ました。このような機会を活用し、千葉工大技術士会の発展・拡大を図っていききたいと思います。



写真 1 ; 松井県技術士会会長



写真 2 ; 久多羅木副会長



写真 3 ; 永田県土整備部部長

写真 4 ; 大石氏



## 8-3 平成 28 年 1 月 建設部会 講演会報告

開催日時：平成 28 年 1 月 20 日（水） 18：00～19：30

講演名：建設コンサルタントの現状と技術士会に望むこと

講演者：長谷川 伸一氏（一般社団法人建設コンサルタンツ協会 会長）

講演場所：パシフィックコンサルタンツ株式会社 16F 会議室

参加者：64 名（会員 52 名、非会員 12 名）

### 1. はじめに

本講演は、我が国の建設コンサルタント業界を代表する組織として、『魅力ある、技術を競う、独立した』知的産業を目指して活動を行っている、一般社団法人 建設コンサルタンツ協会の長谷川伸一会長を講師として迎え開催したものである。講演では、1) 建設コンサルタントの現状、2) 現状の活動と課題、3) 今後の動向、4) 技術士会に望むこと、の 4 主題について、客観的なデータに基づいた業界動向の説明と、氏の長年のご経験に基づいた示唆をいただいた。

### 2. 講演内容

#### 2-1 序言

冒頭に以下の考えを述べられたのち、各主題のご説明をいただいた。

『建設コンサルタントは、社会資本整備における建設生産システムの上流側を担い、その成果は社会資本全体のコスト、機能のみならず、国民生活の安心・安全と快適な生活に大きく寄与するという役割を果たしている。

今後も品格ある知的技術者集団として、自らの創造と提案を示すことで国土創造に貢献し、社会に価値を提供する職業としての評価を高めていくことが必要である。また、併せて経営基盤の安定化や、技術の伝承が確実に行われる組織の構築がなされ、現在と将来の技術の担い手にとって、誇りと夢と希望が実感できる魅力ある業界を目指した活動を進めている。』

#### 2-2 建設コンサルタントの現状

建設コンサルタント、及び建設コンサルタンツ協会の歴史と活動、理念について説明いただいたのち、建設コンサルタント業界の近況（売上高、利益、協会会員社数、職員等）についてご説明された。更に、経営に関わる売上高や利益の変動要因についての分析も同時に示され、業界の現状を客観的に把握することができた。

#### 2-3 現状の活動と課題

主要な課題として、1) 品質の確保&向上、2) ダumping対策、3) 技術力の評価、の 3 テーマを挙げて、以下のようなご説明がなされた。

- 1) 履行期間が短いと不具合の発生率が高くなるため、平準かつ適正な履行期間確保が重要である。
- 2) ダumping対策として、平成 21 年に試行された手持ち業務量の制限、平成 23 年に本格実施された履行確実性評価、等が有効であった。
- 3) 国の機関の契約方式は総合評価&プロポーザルが 90%だが、地方公共団体では現在も価格競争が大部分であり、技術力評価による業者選定制度の導入が遅れている。

#### 2-4 今後の動向

日本の国家予算（一般会計歳出総額：2015 年度）のうち公共事業費は 6.0 兆円で、歳出費目では 社会保障費（31.5 兆円）、地方交付税交付金等（15.5 兆円）に次いで第三位である。しかし、今後の日本は、基礎的財政収支を均衡、黒字化させていく必要があることや、社会保障費増に備える必要があることから、公共事業費の大きな伸びは期待し難い。一方、改正品確法の目的とされているように『インフラの品質確保とその担い手の中長期的な育成・確保』も急務である。

また公共施設の老朽化は着実に進んでおり、維持管理・更新時代を迎え、財源はもちろん技術者の確保にも努力していく必要があることを示された。

#### 2-5 技術士会に望むこと

技術士は国内の主要資格の中でも有数の難易度であるが、その割に地位が低い。その原因として、1) 独占資格でないこと、2) 監督官庁が文科省であること（土木・建築分野だけを対象にした資格でないこと）、を挙げられた。また、建設コンサルタントの地位も実態より低く評価されており、その原因として、1) 業法が整備されていないこと、2) 著作権が担保されていないこと、等を挙げられた。

技術士会にはこれらの改善に取り組んでいただきたいとのご要望がなされた。

#### 2-6 質疑応答

質疑応答は、1) 生産性の向上についての方策、2) 魅力ある建設コンサルタントとするための広報戦略、の2点についてなされた。

生産性向上は建設業界全体の今後の大きな課題である。コンサルタント業務の生産性に特に影響する要因として、[1]知的生産であり技術力による優劣が大きいこと、[2]人材等を一つの業務に一度に投入できないこと、[3]対外的な協議、条件設定の遅れ等の影響を受けること、[4]単年度業務が多く3月に納期が集中すること、等が挙げられた。現在、それらを議論して様々な解決に向けた試行が行なわれている。その中でCIM、ICT等の活用も有効な手段と考えられるが、それらだけでは不十分との問題提起もなされた。

広報戦略としては、学生や一般の人に橋梁やダム、空港等のインフラ施設への理解や興味を持ってもらう働きかけ（親子のインフラ見学会や感想、フォトコンテストの実施）を行なっている。建設コンサルタンツ協会は、今後も社会資本への国民理解が高まる活動を、国や他の団体とも協力して行っていく。このように、若い人にこの業界を魅力ある産業として捉えてもらうための活動は、継続的に行っていく必要があるとの見解を示された。

### 3. おわりに

社会情勢に左右されやすく、舵取りの難しい建設コンサルタント業界を牽引するという重責を担われている長谷川会長の考えを拝聴することで、改めて関連業界の一員としての責務の重さを実感させられました。

中でも、若い技術者の離職率が高いというお話は、若い技術者に『社会資本を担うということの素晴らしさ、縁の下の力持ちであることの誇り』を十分に持たせてこられなかった我々一同の責任と痛感させられました。

最後に、ご講演頂いた長谷川会長には改めて感謝申し上げます次第であります。

（出典；日本技術士会 建設部会HP CPD行事研修員会報告より）

なお尚、本講演には、本学技術士会から久多羅木副会長、相馬幹事、河瀬が参加しました。



写真-1 会場全体風景



写真-2 長谷川会長講演風景

## 8-4 日本技術士会 2月建設部会講演会報告

開催日時：平成28年2月17日（水） 18:00～19:30

講演名：最近の発破解体のシミュレーション

講演者：勝山 邦久（愛媛大学名誉教授 つくば市シニアエキスパート）

講演場所：日本工営株式会社 4F 会議室

参加者：254名（会員24名、非会員1名）

### 1. はじめに

つくば市シニアエキスパートに登録されている勝山愛媛大学名誉教授をお招きして“最近の発破解体のシミュレーション”と題して講演して戴きました。勝山先生は、筑波にある通産省の資源環境技術総合研究所（現・経産省・産総研）、愛媛大学農学部資源学科に勤務された経歴をもとに、発破に関するシミュレーション技術の開発の歴史、動画による実際の発破解体について講演されました。

### 2. 講演内容

・内容（テーマ：最近の発破解体のシミュレーション）

1. 講演者が利用したコンピューターの変遷紹介
2. 波動のシミュレーション
3. 発破解析に用いる雷管・爆薬の説明
4. 部材の切断
5. 発破解体の実例とシミュレーション

#### 2-1 コンピューター

計算尺、2進法、紙テープ、カード等、昭和40年代の計算技術に触れられ、容量、演算速度等、急激に進歩した計算能力について説明され、当時の限られた容量の下で演算速度等に配慮したプログラミング等エンジニアとしての誇りを語られました。

#### 2-2 波動のシミュレーション

動的（京都大学）と静的（東京大学）という異なる解析手法により発破理論が構築されてきたことを紹介された中で、テイモシェンコ、運動方程式、差分法、有限要素法、不連続変形法（DDA；discontinuous deformation analysis）等の解析に関するアカデミックな用語が発せられた。

DDA（discontinuous deformation analysis）；任意形状の弾性体多角形ブロック（要素）の集合体における変位・変形を、動的、準静的に解析する手法

#### 2-3 <sup>ばくごう</sup>爆轟ビデオの紹介

- ・ホプキンソン効果
  - ・殉爆
  - ・ダイナマイト爆轟
  - ・2点同時起爆
  - ・成型爆薬・・・ノイマン効果
  - ・クラックゲージ
- 等について、紹介された。

※ **ホプキンソン効果** (Hopkinson effect) は鋼板や岩石などに爆薬を密着させた状態で爆破した際、その裏面に剥離を生ずる現象である。爆発によって対象物の内部に衝撃波が投射されると圧縮波となって内部へ伝わり、これが自由面で反射すると逆方向の引張波となる。岩石、コンクリートなどの材料は圧縮強度よりも引張強度が弱い(但し金属は圧縮強度と引張強度の差は無い)ため、爆発による圧縮応力で破壊されなくても引張応力によって表面に剥離を生ずる。金属板の場合にはこれによって裏面が金属片となって飛び散ることになる。このような現象をスポール破壊と呼ぶ。この効果を応用した砲弾が HEP、または HESH (粘着榴弾) である。

(出典 ; Wikipedia より)

発破による鋼板切断のプロセス等、専門性が高く、現場において火薬を使用した技術者、火薬学、岩盤力学等に精通した技術者にとっては、非常に興味深い映像が紹介されたものと思います。

#### 2-4 実建造物の発破解体例

- ・ 北海道貯炭場
- ・ 神戸三菱倉庫
- ・ 三峡ダム右岸仮締切堤撤去

等について、ビデオ紹介があった。中には、発破解体シミュレーションと実際との比較映像もあり、興味深いものであった。

### 3. おわりに

今回は勝山先生の厚意により講演で使用された PPT の図・写真を DVD にて配布させて戴きました。韓国、中国では盛んに発破解体が行われているとの事です。海外からの優秀な留学生が帰国した後に、これらのプロジェクトに関与されているとの事です。発破に関するシミュレーション等、海外における技術開発は既に我が国を凌駕しているとの感想を抱きました。



写真-1 会場の様子

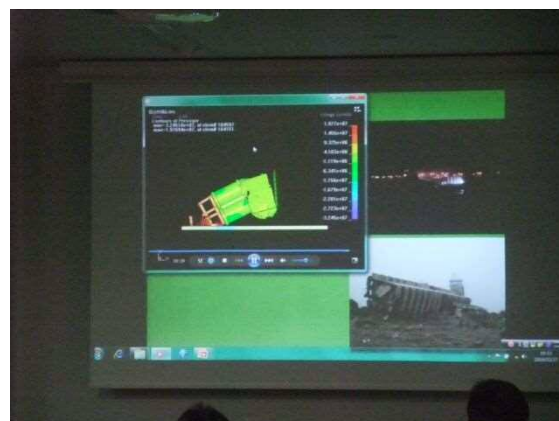


写真-2 解体のシミュレーション

本講演会には、相馬幹事から、次ページの報告が提供されました。一部内容が重複しますが、原文を掲載しました。



## 8-5 日本技術士会 2月建設部会講演会 参加報告

報告者 相馬 裕

- ・時 期；平成 28 年 2 月 17 日（水）18:00～17:30
- ・場 所；日本工営㈱ 千代田区九段北 1-14-6
- ・講演者；勝山 邦久 愛媛大学名誉教授
- ・講師略歴；昭和 43 年 3 月京都大学を卒業、当時の通産省へ入省。主としてつくば研究施設で発破解析理論などの分野を研究。平成 12 年より愛媛大学にて教鞭をとる。
- ・参加者；建設部会希望者ほか、CIT より河瀬日吉技術士が主催者幹事として 30 名ほど参加
  
- ・内容（テーマ：最近の発破解体のシュミレーション）
  - 1) 講演者が利用したコンピューターの変遷紹介
  - 2) 波動のシミュレーション
  - 3) 発破解析に用いる雷管・爆薬の説明
  - 4) 部材の切断
  - 5) 発破解体の実例とシミュレーション
  
- ・感想
  - ・私の若い時代の経験した山岳トンネルで用いた火薬の知識を再度学んだ
  - ・発破解析は多少難解ではあったが、講演者は研究者の立場からの知見を説明し、私のような施工側で理解する内容とは温度差があった
  - ・雷管や火薬の性質は、すでに千葉工大にて過去に土木系学生に対し半年講義を行った経験から理解は出来た。
  - ・三峡ダム（中国）の仮締め切り撤去に火薬を用いたビデオ映像は、興味があり大いに参考になった。施工手順に感心した。
  - ・建築物の解体ビデオは国内でのものとほぼ同じである。
  - ・種子島ロケット基地（過去に建設され現在使われていないもの）の解体シミュレーションの委託を受けたが、現実の施工には至らなかった模様で、他の工法で行われた様子に残念がっていた

以上

## 8-6 日本技術士会第64回技術者倫理研究会参加報告書

報告者 相馬 裕

- ・時 期；平成28年3月15日（火）18:30～20:30
- ・場 所；日本技術士会葺手ビル5F会議室
- ・司 会；橋本義平（有）SYSBRAINS技術士事務所代表取締役
- ・参加者；化学（1）、機械（3）、建設（4）、情報工学（5）、電気電子（3）、原子力（1）、上下水道（1）など約20名のほか北海道・北陸・関西・中国・九州本部とのWEB中継で会員参加型。
- ・テーマ；「設計と保守の相互補完による安全と倫理
- ・講 師；掛川昌俊技術士
- ・内 容；今回は過去2回にわたりシンドラ社のエレベーター電磁ブレーキの不具合に起因する生命身体被害（死亡事故）を伴う事故が繰り返され、その設計と保守の相互補完による安全と倫理について講演。

平成18年6月3日港区シティハイツ竹芝12階の出入口で、男性がエレベーターから降りようとした際、扉が開いたままの状態でもエレベーターが上昇し、乗降口の上枠とかご床部分の間に挟まれた。事故機の電磁ブレーキのソレノイドコイルの抵抗値が定格値（48Ω）の約半分（24.3Ω）であったとの情報もあり、講師（掛川氏）が消費者庁の専門調査委員として現場を調べた結果報告であった。同様に平成24年10月31日石川県アパホテルでも同機種で同じような事故が発生、これもソレノイドコイルとブレーキドラムの因果関係を当専門員が調査した結果報告も紹介された。

以下、意見交換会における当事故の問題点と課題を列挙する。

- ①事故責任の所在は製造側ではなく保守側にあるとシンドラ社の見解（裁判所で主張）
- ②欧州では1990年より安全装置は法令で2重になっているが、当時の日本では規制が無い。ビル所有者若しくは保守側で安全装置を切断していた形跡があると主張
- ③設計と保守の連携が日本では遅れていると指摘（図参照）
- ④業界（エレベーターと保守）の相互意思疎通がない
- ⑤設計者の対処不足と事業者（経営者）の意見交換が不足
- ⑥エレベーター保守費がそれぞれ当初460万円/年（随契）、5～6年後120万円/年（指名競争入札）になった。保守費用の限界を超えた安価な維持費ではないか
- ⑦保守の方法としてFM（フルメンテナンス）とPOG（パーツ・オイル・グリス）の2通りがあるが、果たして真相はわからない
- ⑧日本はこの事故後2重安全装置が法制化された。世界最高のスペックになっている。しかしコスト面で高価になっているため、事業者側で安価な機種を選ぶ傾向。また建設業者も安全を軽視して入札時安価な機種で施工をしたがる傾向にある
- ⑨ソレノイドコイルは分解が困難であり、コイルの巻き数が少ないと故障の原因となる
- ⑩今回の2件は公共施設と民間施設という相違はあるが、事故の概念は一緒であり、再発防止策の解決に向けた技術者の倫理について討議が始まった

- ⑪設計者（技術者）と経営者の意見の相違（相反作用）があるが、経営者のもとで働く技術者は、コスト・品質・納期の3点をしっかり主張できる知見と資質を持つべきである
- ⑫事故は扉が開いたため起きた。エレベーターの不具合が発生した時、扉が開かない方法も考えるべきである（はさまれ防止）
- ⑬原子力部門では設備一式の責任はすべて所有者の責任として法律で明記されている。従ってこの事故はビル所有者の責任であると発言する参加者もいるが、PL法の存在を指摘してメーカー側の責任のほうが大きい（すなわち設計者や製造者）と唱える参加者と意見が2手に分かれた。保守側は所有者の意向（予算）で動く傾向にある。
- ⑭品確法とPL法の両天秤があるので、双方十分内容を理解すべきである
- ⑮民間マンションなどは一体どのような責任になるのかとの意見もでた
- ⑯今回の主題をテーマに技術者倫理としてとらえるときには最終的に以下の図で説明したい

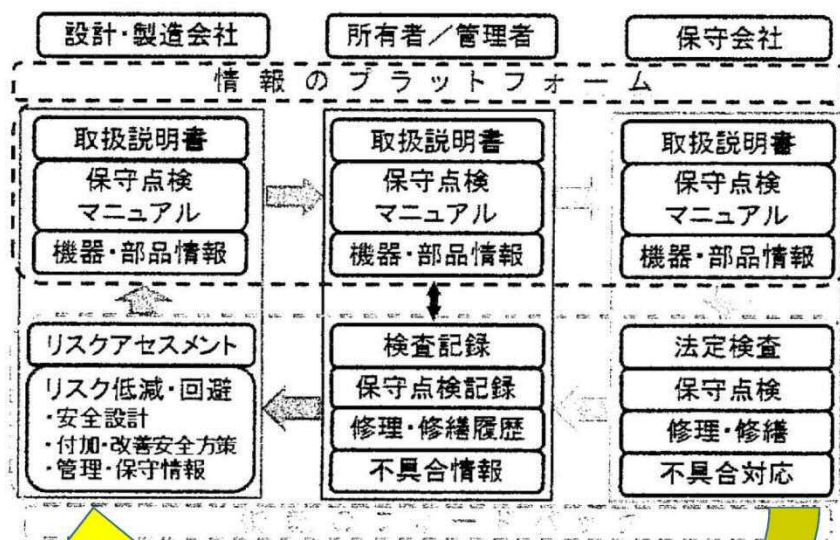


図 5. 設計・保守ループの概念図

結論；

- ①保守情報を設計・製造会社へフィードバックすることが重要
- ②情報プラットフォームの構築が大切
- ① 技術者は経営者のもとで勇気をもってどうあるべきかと意見を述べるのが大切

以上

広報委員より；講演会参加報告、論文報告等、随時受付け会報にて紹介します。

日本技術士会では CDP 行事を各部会等で随時開催しています。

日本技術士会HPにて行事予定を確認し参加して下さい。次ページに日本技術士会パンフレットから、一部を紹介します。

## 8-7 日本技術士会におけるCPD活動の紹介

### 「技術士全国大会」の開催

- ・全国で活躍している技術士のコミュニケーションを図ることを目的に、開催地を替えて開催。

### 「地域産学官と技術士との合同セミナー」の開催

- ・地域産業活性化に向けて各地域が個別に抱える様々な課題の解決に対し、技術士または本会が貢献できる場がより一層広がることを目標として、開催地を替えて全国各地において年4回開催。

### 「CPD行事」の開催

- ・2014年ノーベル物理学賞を受賞された名古屋大学大学院の天野浩教授を招き、「LEDが照らす日本と世界の明るい未来」と題し「新春記念講演会」を開催しました。（写真下左；日本教育会館にて）
- ・外部講師による「技術士CPD中央講座」「技術士CPDミニ講座」を開催。
- ・技術士による「技術士CPD・技術士業績・研究発表年次大会」を開催
- ・日本技術士会が直面している重要問題について理解を深める「技術士フォーラム」を開催
- ・技術者倫理に関する大会、研修会として「技術者倫理ワークショップ」及びシンポジウム「企業と技術者の倫理とコンプライアンス」を開催
- ・8地域本部、各県支部及び技術士各技術部門に対応した19部会において、情報交換、調査研究会、見学会、講演会などを開催（写真下右；青年技術士交流委員会活動）

### 「CPD教材」の発行

日本技術士会では「技術士CPD教材」を多数発行しています；例を紹介します。

- ・独立を目指す人のための「技術コンサルタントガイドブック」
- ・技術士倫理綱領の理解を深める「技術者倫理事例集」



天野教授による講演の様子



青年技術士会交流委員会活動（八景島）

## 9. 広報委員会から

広報委員長 河瀬 日吉

広報委員会の活動は例年同様、千葉工業大学技術士会の存在を本学在校生や卒業生により多く知っていただき、賛同され、当技術士会で活動していただけるよう啓蒙し、その普及に努める活動を行うことにあります。

従いまして、原則年間一回ではありますが、会報の発行を始め、千葉工業大学技術士会ホームページのリニューアルやメンテナンス、或いは大学の産官学融合課と連携した活動等を通して種々の広報活動を展開致しております。

このたびの「会報」発行に付きましては、第9回総会において会長ほか執行体制を一新したこともあり、例年通り3月発行が叶わず合併号となりましたことをお詫び申し上げます。

以下に当委員会の26年度以降の広報活動の内容を示します。

### 9.1 平成26年度以降の活動結果報告

平成26年7月の第9回千葉工業大学技術士会総会後の広報委員会開催を踏まえ、2年間の広報活動について活動実績を報告致します。

#### (1) 会報の発行

当技術士会の機関誌でもある「会報」第10、11号合併号の平成28年3月発刊を予定して編集作業を実施しました。

#### (2) 技術士会ホームページのリニューアルとメンテナンス

技術士会ホームページを平成25年7月に開設し約2年が経過します。

この変更により千葉工業大学技術士会の活動内容の更新、会員各員の情報交換の場が可能になり、また、過去の当会での出版した「会報」や「技術士挑戦ガイドブック」がダウンロード出来る環境になりました。

#### ホームページアドレス

<http://cit-gijyutsushi.jp>



会報掲載 ; 第1回～第10回 (本号)

委員会報告 ; 受験支援委員会、広報委員会、特別講義実施委員会

資料掲載 ; 技術士<国家試験>への挑戦 ガイドブック

他大学技術士会講演会参加報告  
千葉県技術士会定例会報告

(3) 「技術士への挑戦！ガイドブック」の発刊

本年度も大学・学生センター教育支援課の依頼を受け、当技術士会が監修、編集したガイドブックを発行致しました。前年度の試験要領変更に加え、今年度の改訂では、二次試験日変更の他、新規の合格体験記や判り易さを編集方針とし、折り込みイラスト多く使い、日本技術士会CPD認定変更等の最新情報の改訂を行いました。

平成25年版の「技術士への挑戦！ガイドブック」の大幅改訂作業を26年11月より行い、千葉工業大学 学生センター 津田沼教務課（教育支援担当）を通じて1500部印刷されたほか、千葉工業大学技術士会には300部提供して戴きました。技術士会活動の一環に活用をお願いします。

資料請求は、下記をお願いします。

千葉工業大学 学生センター  
津田沼教務課（教育支援担当）  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1  
TEL：047-478-0279  
FAX：047-478-0328



2016年版 技術士への挑戦ガイドブック表紙

注) 平成28年度試験に向けて、平成28年1月に千葉工業大学津田沼教務課（教育支援担当）にデータを送り、同窓会・千葉工大技術士会HPにアップされます。

(4) 広報活動として「校友タイムス」「ニュースCIT」への投稿

- ・校友タイムス No147 2014.9.1 新会長挨拶 (山下新会長)
- ・校友タイムス No148 2015.1.15 技術士新役員紹介 (五嶋智久)
- ・校友タイムス No149 2015.5.1 創立10周年を迎えて (山下新会長)

定期的な活動報告及び会員の状況などを同窓会誌「校友タイムス」を中心に随時掲載し、技術士会の活動内容を広報いたしました。

## 9.2 広報委員会からのお願い

現在、広報委員は会員の方々のご協力をもって活動しておりますが、多くの広報活動事項がありますのでまだ会員の皆様で広報活動に参加してみようと思われている方がおられましたら、是非事務局に御連絡を下さい。

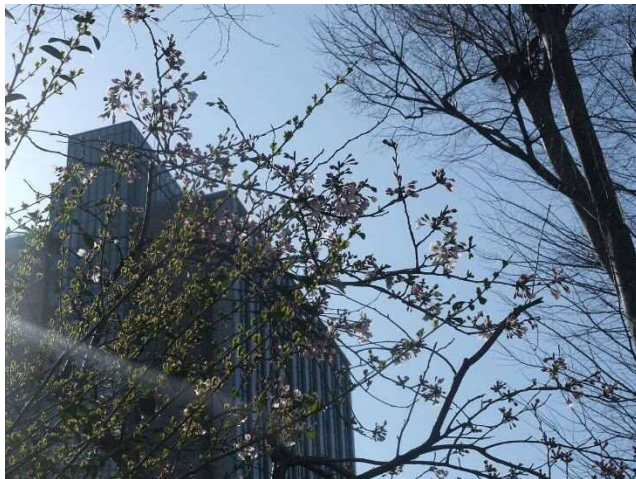
また、会員各位の企画、寄稿文等も随時募集いたしておりますので、この点も御連絡をお待ち致します。



新学期を待つ芝園校舎



津田沼校舎 JR津田沼駅前歩道橋より



津田沼校舎 総武線緩行電車（上り）

千葉工業大学技術士会 会報 第10,11号 平成28年3月31日発行

千葉工業大学技術士会

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号

千葉工業大学 産学融合課内

TEL 047-478-0325

Fax 047-478-0434 <http://cit-gijyutsushi.jp>